

平成 25 年度に実施した高等専門学校機関別 認証評価に関する検証結果報告書

平成 27 年 3 月

独立行政法人 大学評価・学位授与機構

はじめに

大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）では、認証評価を開放的で進化する評価とするために、評価の経験や評価を受けた機関等の意見を踏まえつつ、常に評価システムの改善を図ることとしている。

このため、平成 17 年 7 月に文部科学大臣が認証する評価機関（以下「認証評価機関」という。）となって以降、はじめての経験となった平成 17 年度実施の高等専門学校機関別認証評価において、評価の終了後、評価対象校及び機構側の評価担当者（以下「評価担当者」という。）へのアンケート調査を実施し、その結果等をもとに評価の有効性、適切性について検証を行った。この結果、評価内容・方法等の改善・充実すべき点を把握でき、平成 18 年度実施の認証評価に反映させた。同様に平成 18 年度から平成 24 年度実施の高等専門学校の機関別認証評価においても評価終了後、アンケート調査を実施し、検証を行いそれぞれ平成 19 年度から平成 25 年度実施の認証評価に改善点等を反映させた。（この検証結果は年度ごとに「高等専門学校機関別認証評価に関する検証結果報告書」としてまとめている。）

平成 25 年度実施の高等専門学校機関別認証評価においても、引き続きアンケート調査を実施して検証を行うこととし、ここに平成 25 年度実施の認証評価（14 高等専門学校）に関する調査及び検証結果を取りまとめた。

目 次

はじめに

I 機構が実施した高等専門学校機関別認証評価の概要	1
---------------------------	---

II 平成 25 年度実施の認証評価に関する検証

1. 検証の実施方法	4
------------	---

2. 項目別の検証

(1) 評価基準及び観点について	7
(2) 説明会・研修会について	8
(3) 自己評価書について	9
(4) 書面調査・訪問調査について	10
(5) 評価結果（評価報告書）について	11
(6) 評価の効果・影響について	13
(7) 評価の作業量等について	14
(8) 前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善について	16
(9) 評価についての全般的な意見・感想について	18

3. 対象校及び機構の取組

(1) 認証評価結果を受けた対象校の改善取組例	19
(2) アンケートで寄せられた意見と機構の取組例	20

参考資料

1 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答） 【対象校】	23
2 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答） 【評価担当者】	28
3 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述） 【対象校】	31

4	認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述） 【評価担当者】・・・・・・・・・・・・・・・・	52
5	認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】 （高等専門学校用）・・・・・・・・・・	63
6	認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】 （高等専門学校用）・・・・・・・・・・	87

I 機構が実施した高等専門学校機関別認証評価の概要

平成 25 年度に実施した認証評価の検証をまとめるに当たって、まず機構が実施した高等専門学校の機関別認証評価の概要について触れておく。

高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の総合的な状況に関し、7 年以内ごとに、認証評価機関の実施する評価を受けることが義務付けられている（学校教育法第 109 条、同法第 123 条及び学校教育法施行令第 40 条）。

機構は、この認証評価制度の下で、高等専門学校の認証評価を行う「認証評価機関」として、平成 17 年 7 月、文部科学大臣から認証され、平成 17 年度より認証評価を開始した。平成 25 年度実施分の認証評価は 9 年目の実施に当たる。なお、平成 23 年度から、機構が実施する評価の第 2 サイクル期間に移行した。

1. 目的

認証評価は、我が国の高等専門学校の教育研究水準の維持及び向上を図るとともに、その個性的で多様な発展に資するよう、以下のことを目的として行った。

- (1) 機構が定める高等専門学校評価基準に基づいて、高等専門学校を定期的に評価することにより、高等専門学校の教育研究活動等の質を保証すること。
- (2) 評価結果を各高等専門学校にフィードバックすることにより、各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てること。
- (3) 高等専門学校の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、公共的な機関として高等専門学校が設置・運営されていることについて、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

2. 実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立高等専門学校の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる高等専門学校機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象高等専門学校（以下「対象校」という。）の状況に応じた評価部会等を編成した。

評価部会等には、各高等専門学校の教育分野やその状況が多様であること等を勘案し、対象校の学科等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

3. 方法・プロセス

方法及びプロセスの概要は、下記のとおりである。

(1) 高等専門学校における自己評価

各高等専門学校は、『自己評価実施要項』に従って、自己評価を実施し、自己評価書を作成し、機構に提出した。

(2) 機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

① 書面調査は、『評価実施手引書』に基づき、対象校から提出された自己評価書（高等専門学校の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象校の状況を調査・分析した。

② 訪問調査は、『訪問調査実施要項』に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。

③ 基準ごとに、自己評価の状況を踏まえ、高等専門学校全体として、その基準を満たしているかどうかの判断を行い、理由を明らかにした。

なお、基準の多くが、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されている。基準を満たしているかどうかの判断は、その基本的な観点の分析状況を総合した上で、基準ごとに行った。

④ 基準を満たしているもののうち、その取組が優れていると判断される場合や、基準を満たしているが、改善の必要が認められる場合等には、その旨の指摘も行った。

⑤ 高等専門学校全体として、すべての基準を満たしている場合に、機関としての高等専門学校が機構の高等専門学校評価基準を満たしていると認め、その旨を公表した。（一つでも満たしていない基準がある場合には、高等専門学校全体として高等専門学校評価基準を満たしていないものとして、その旨を公表することとしている。）

4. スケジュール

(1) 平成24年6月に、平成25年度に機構が実施する認証評価に申請を予定している高等専門学校のうち、説明を希望する高等専門学校の関係者に対し、高等専門学校機関別認証評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、当該高等専門学校の自己評価担当者に対し、自己評価書の記載等について研修会を実施した。

(2) 平成24年7月から9月にかけて、以下の14高等専門学校から申請を受け、評価を実施することとなった。

○ 国立高等専門学校（14高等専門学校）

鶴岡工業高等専門学校、木更津工業高等専門学校、東京工業高等専門学校、
岐阜工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、舞鶴工業高等専門学校、
奈良工業高等専門学校、松江工業高等専門学校、呉工業高等専門学校、
宇部工業高等専門学校、弓削商船高等専門学校、久留米工業高等専門学校、
北九州工業高等専門学校、佐世保工業高等専門学校

(3) 平成 25 年 6 月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、高等専門学校評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。

(4) 平成 25 年 6 月末に、対象校から自己評価書の提出を受けた。

(5) 対象校からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは次のとおりであった。

25 年 7 月	書面調査の実施
8 月	評価部会、財務専門部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定）
9～11 月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象校の状況を調査）
12 月	評価部会、財務専門部会の開催（評価結果（原案）の作成）

(6) これらの調査結果を踏まえ、平成 26 年 1 月に評価委員会で評価結果（案）を決定した。

(7) 評価結果（案）に対する意見の申立ての機会を設け、平成 26 年 3 月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定した。

5. 評価結果

平成 25 年度に認証評価を実施した 14 高等専門学校のすべてが、機構の定める高等専門学校評価基準を満たしているとの評価結果となった。

機構はこの評価結果を平成 26 年 3 月 26 日付で、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

※ 高等専門学校評価基準（機関別認証評価）は機構ウェブサイトを参照のこと。

http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kousen/index.html

Ⅱ 平成 25 年度実施の認証評価に関する検証

1. 検証の実施方法

(1) アンケート調査の実施

平成 25 年度実施の認証評価の対象校及び評価担当者に対し、記名選択式回答（5 段階・2 段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

アンケート調査項目は次のとおりである。

〔対象校〕

1. 評価基準及び観点について
2. 評価の方法及び内容について
 - (1) 自己評価について
 - (2) 訪問調査等について
 - (3) 意見の申立てについて
3. 評価の作業量、スケジュール等について
 - (1) 評価に費やした作業量について
 - (2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて
 - (3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて
 - (4) 評価のスケジュールについて
4. 説明会・研修会等について
5. 評価結果（評価報告書）について
 - (1) 評価報告書の内容等について
 - (2) 自己評価書及び評価報告書の公表について
 - (3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について
6. 評価を受けたことによる効果・影響について
 - (1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について
 - (2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について
7. 評価結果の活用について
8. 評価の実施体制について
9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について
10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて
11. その他

〔評価担当者〕

1. 評価基準及び観点について

2. 評価の方法及び内容・結果について
 - (1) 自己評価書について
 - (2) 書面調査について
 - (3) 訪問調査について
 - (4) 評価結果について
3. 研修について
4. 評価の作業量、スケジュール等について
 - (1) 評価に費やした作業量について
 - (2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて
 - (3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて
 - (4) 評価作業にかかった時間数について
5. 評価部会等の運営について
6. 評価全般について
7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

(2) アンケート調査結果等の検証

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査項目から、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。その上で、評価実施過程において機構が把握した問題点等も踏まえ、評価の有効性、適切性を検証した。

分析項目は以下のとおりである。

- (1) 評価基準及び観点について
- (2) 説明会・研修会について
- (3) 自己評価書について
- (4) 書面調査・訪問調査について
- (5) 評価結果（評価報告書）について
- (6) 評価の効果・影響について
- (7) 評価の作業量等について
- (8) 前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善について
- (9) 評価についての全般的な意見・感想について

なお、報告書の本文には、アンケート調査結果のうち主なものを掲載しており、参考資料にはすべての調査結果を掲載している。

※アンケート調査に係る補足事項

1. アンケート用紙配付日程

	平成 25 年度
対象校	平成 26 年 3 月 26 日
評価担当者	平成 25 年 12 月 25 日

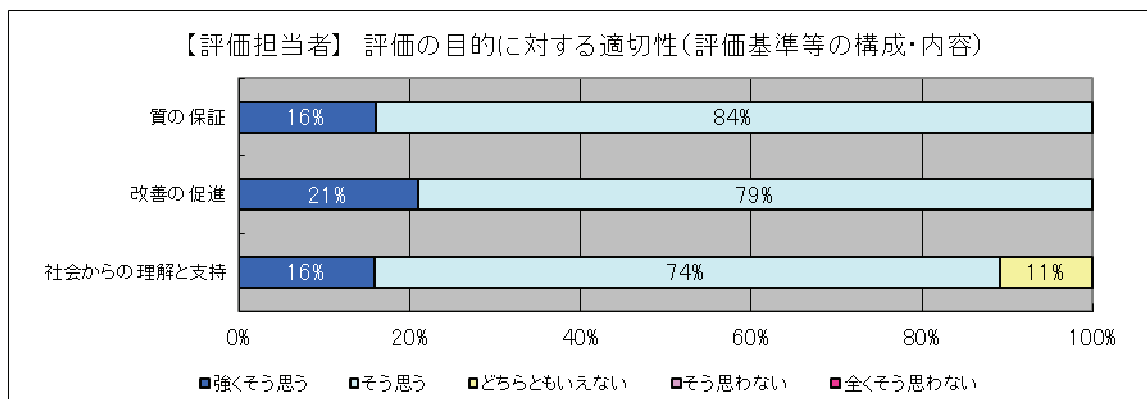
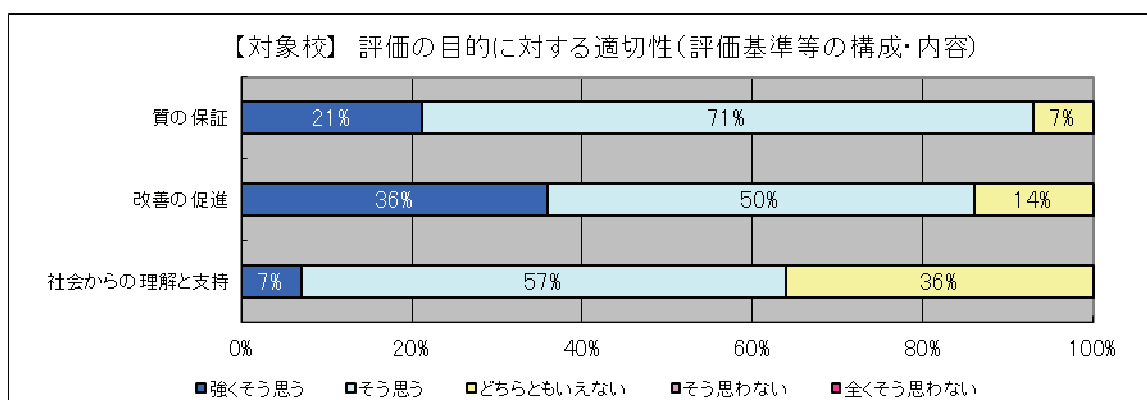
2. 平成 25 年度アンケートの回収状況

	回答数	回収率
対象校	14 校中 14 校	100%
評価担当者	22 人中 19 人	86%

2. 項目別の検証

(1) 評価基準及び観点について

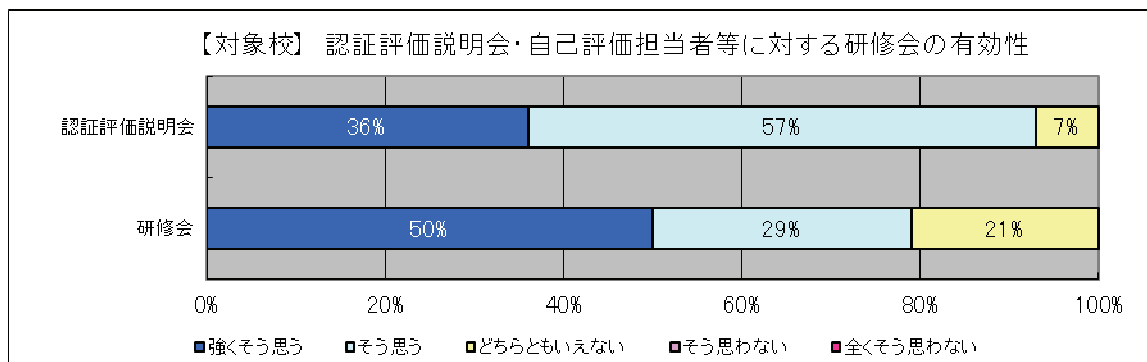
評価の目的に対する適切性について、評価基準及び観点の構成や内容は、高等専門学校の教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」という評価の目的に照らして適切なものであり、「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らしてもおおむね適切なものであると考えられる。また、評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であると考えられる。



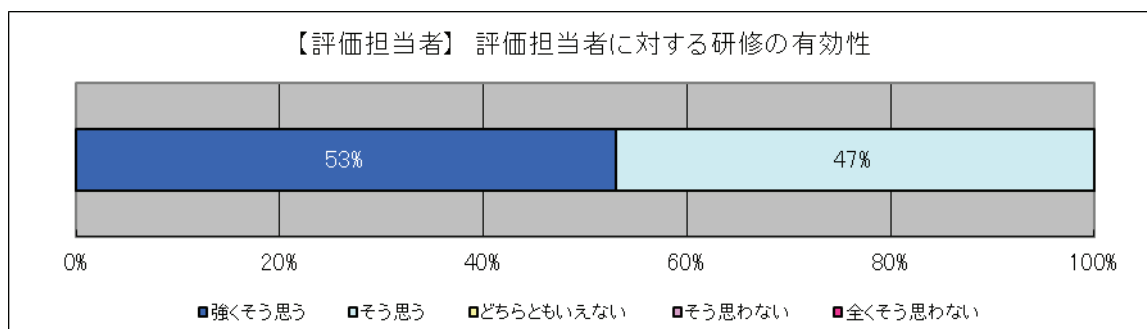
※ 回答率については、小数点以下四捨五入のため合計が100%にならないものもある。また、未回答は除いている。

（２）説明会・研修会について

認証評価説明会は有効であると考えられる。また、自己評価担当者等に対する研修会もおおむね有効であると考えられる。

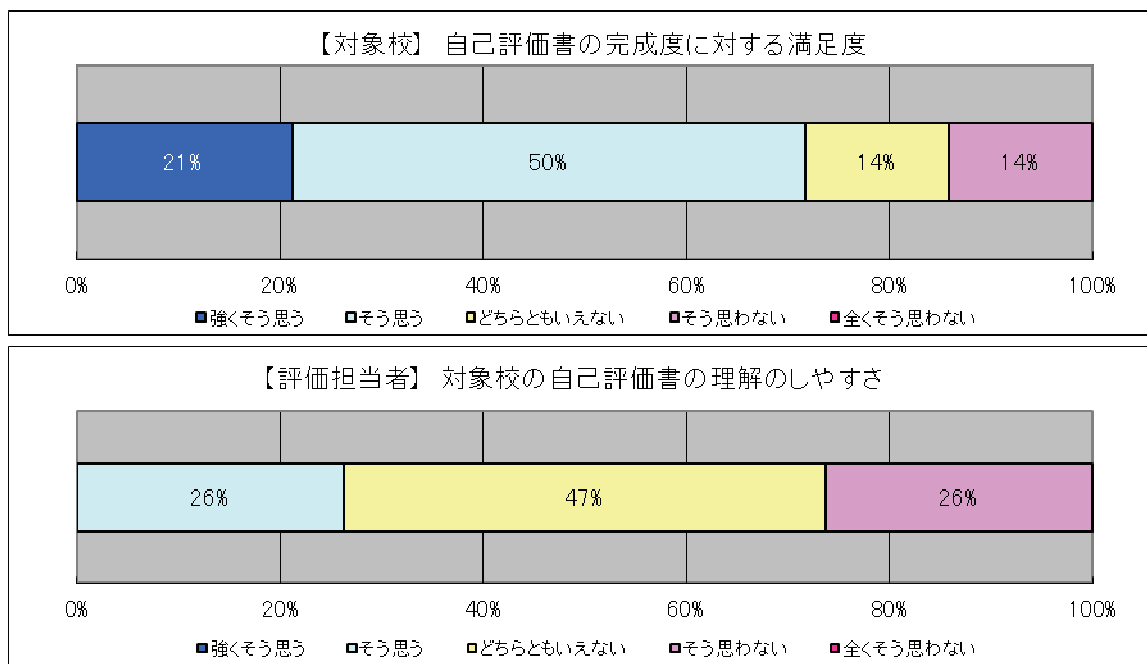


評価担当者に対する研修は有効であると考えられる。



(3) 自己評価書について

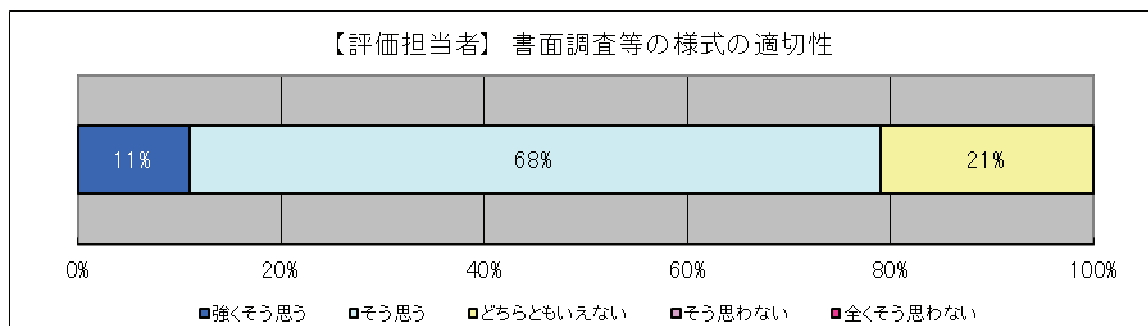
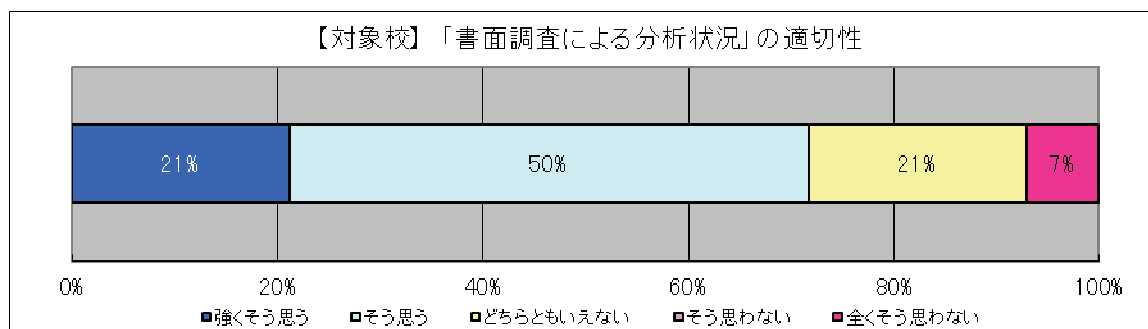
自己評価書について、対象校は完成度の高い自己評価書が作成されたとおおむね認識している。一方で、評価担当者からは理解しやすさについて、一部否定的な回答も寄せられている。引き続き、説明会等で自己評価書の書き方について対象校の理解を深める工夫をするとともに、自己評価書提出前の機構への事前相談を促すことで、より完成度の高い自己評価書の作成につなげていく必要がある。



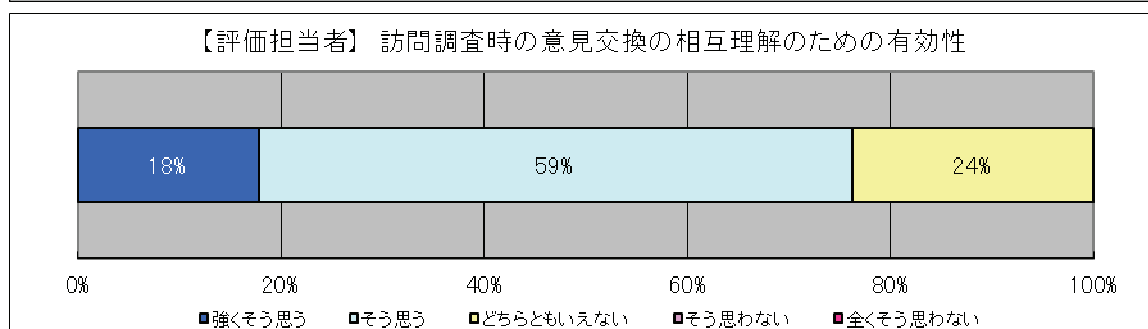
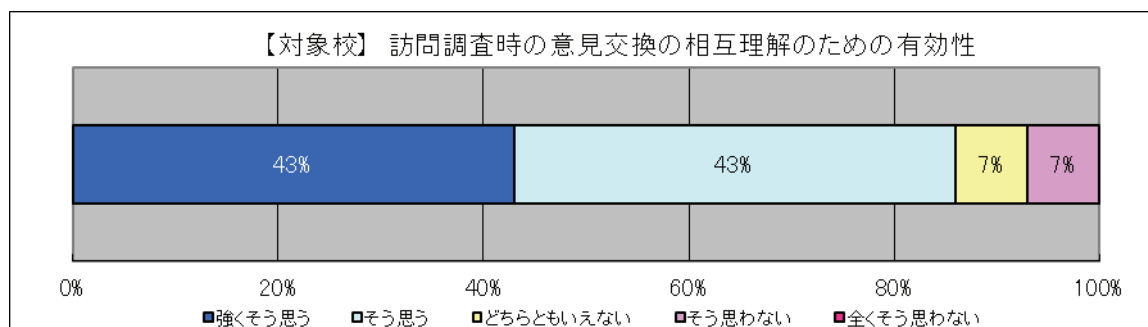
自己評価書に必要な根拠資料が引用・添付されていたかについて、評価担当者からの肯定的な回答は必ずしも多いとはいえず、引き続き、説明会等で添付資料についての対象校の理解を深める工夫が必要である。

(4) 書面調査・訪問調査について

「書面調査による分析状況」の内容や書面調査票等の様式はおおむね適切であると考えられる。

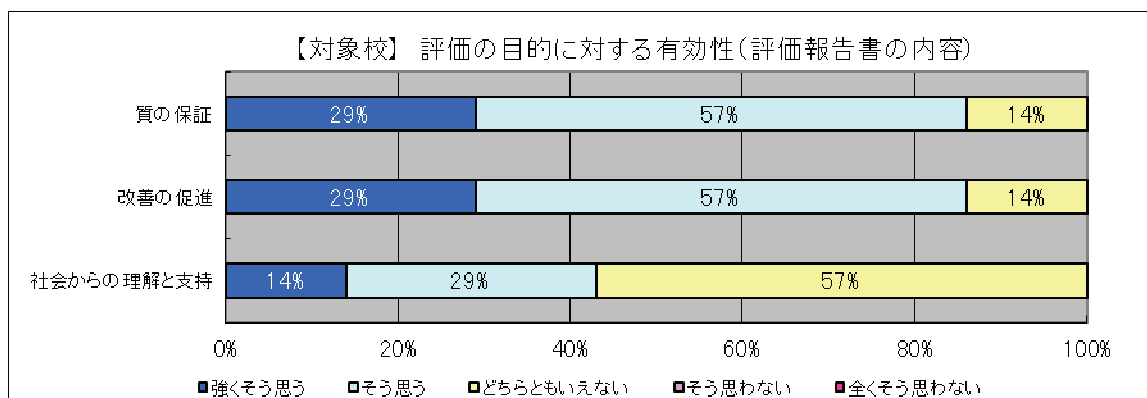


訪問調査時の意見交換の相互理解のための有効性について、訪問調査の実施によって、対象校と機構の評価担当者との間でおおむね共通理解を得ることができたと考えられる。

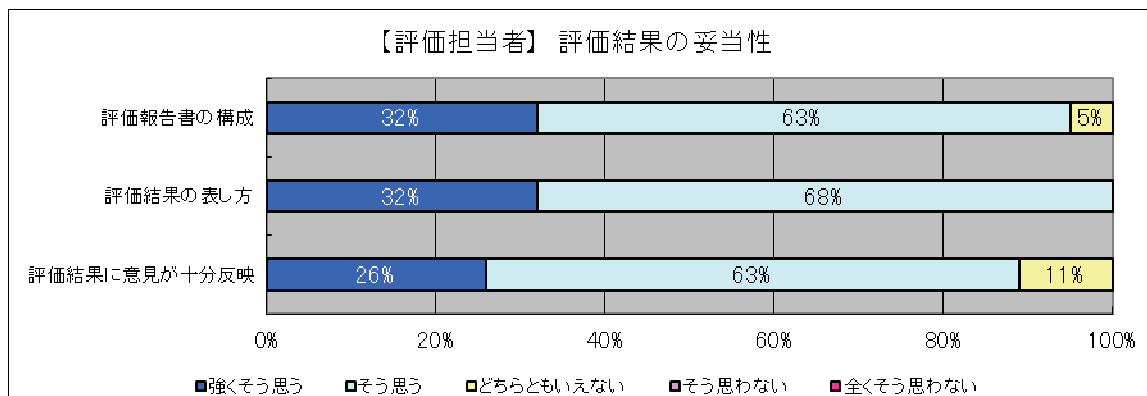


（５）評価結果（評価報告書）について

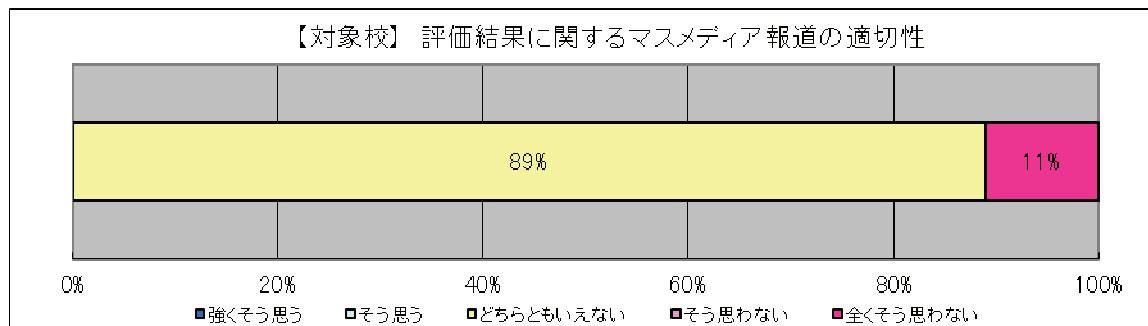
評価報告書の内容について、「質の保証」「改善の促進」という評価の目的や、対象校の実態に照らして適切なものであると考えられる。また、対象校の目的や規模等に照らしてもおおむね適切なものであると考えられるが、「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らすと肯定的な回答が必ずしも多いとはいえないため、改善の余地がある。



評価結果の妥当性について、評価報告書の構成、評価結果の表し方及び評価担当者の意見の評価報告書への反映については、肯定的に評価されており、適切であると考えられる。

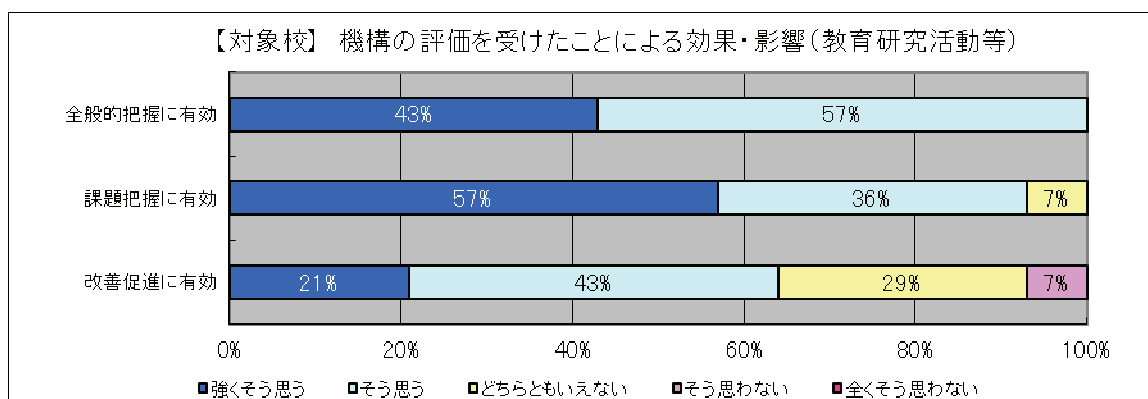


評価結果に関するマスメディア報道の適切性について、「どちらともいえない」という回答が多く寄せられており、認証評価の社会的認知度の向上については、機構としても情報発信に努めているものの、今後、更に工夫を行っていく必要がある。

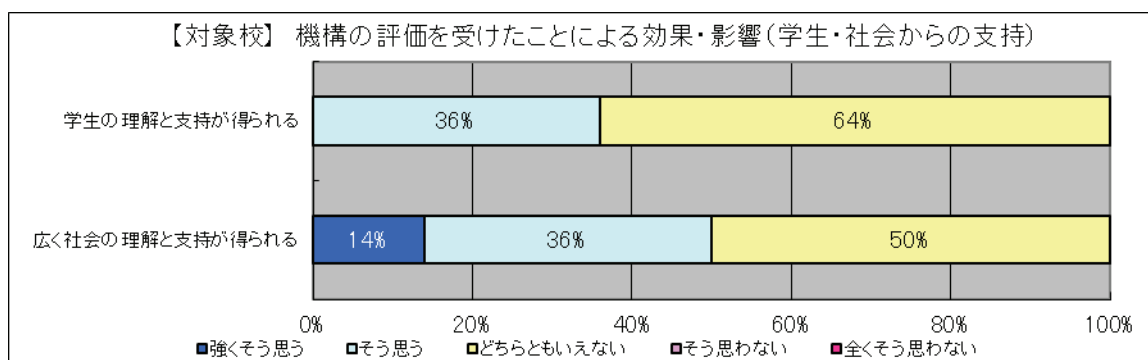


（６）評価の効果・影響について

対象校が評価を受けたことによる効果・影響について、教育研究活動等の状況や課題の把握に有効であると考えられる。また、改善の促進にもおおむね有効であると考えられる。



対象校が評価を受けたことは、学生や社会からの理解と支持を得ることに有効であるとする回答は必ずしも多いとはいえないため、引き続き、認証評価制度や機構の行う評価に対する社会の認知度を高めていく必要がある。

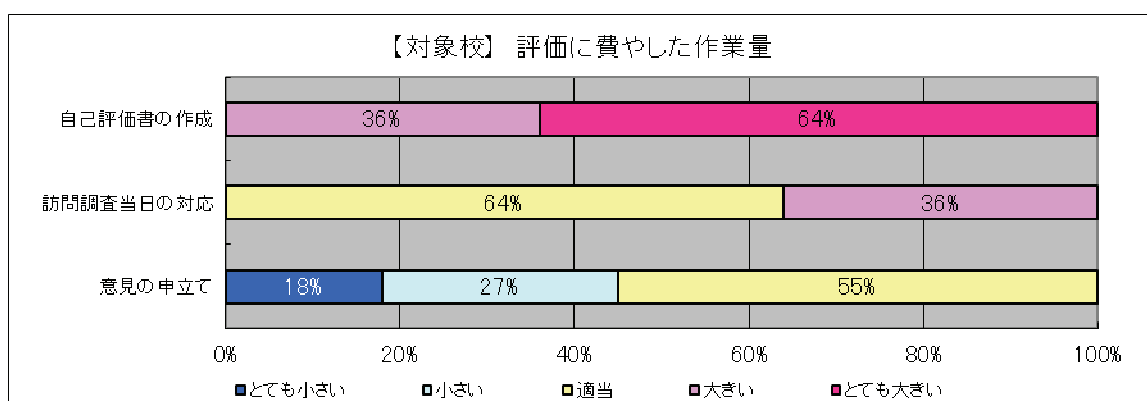


各教員の教育活動等に取り組む意識の向上や組織的な運営及び自己評価の重要性の教職員への浸透におおむね有効であると考えられる。

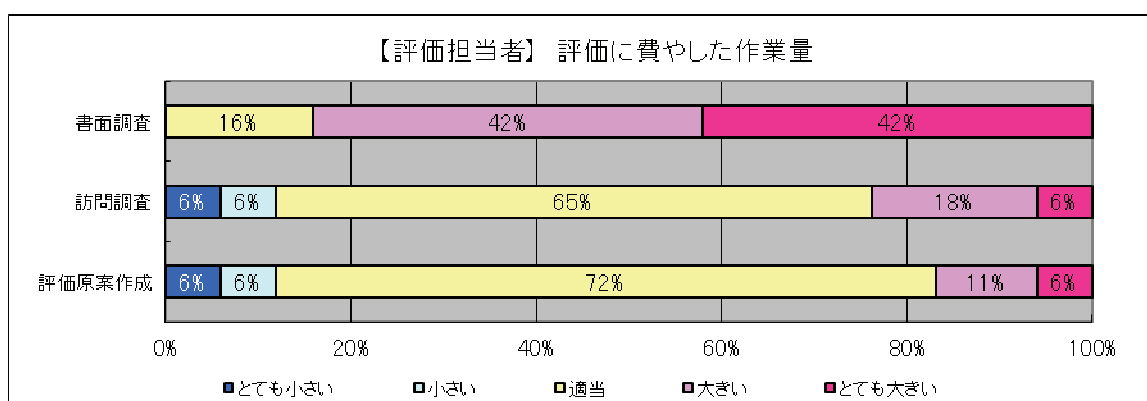
自己評価の実施及び機構の評価結果を踏まえた改善・向上への取組は、各対象校で着実に行われている。（具体的な改善事例は「３（１）認証評価結果を受けた対象校の改善取組例」に挙げる。）

（７）評価の作業量等について

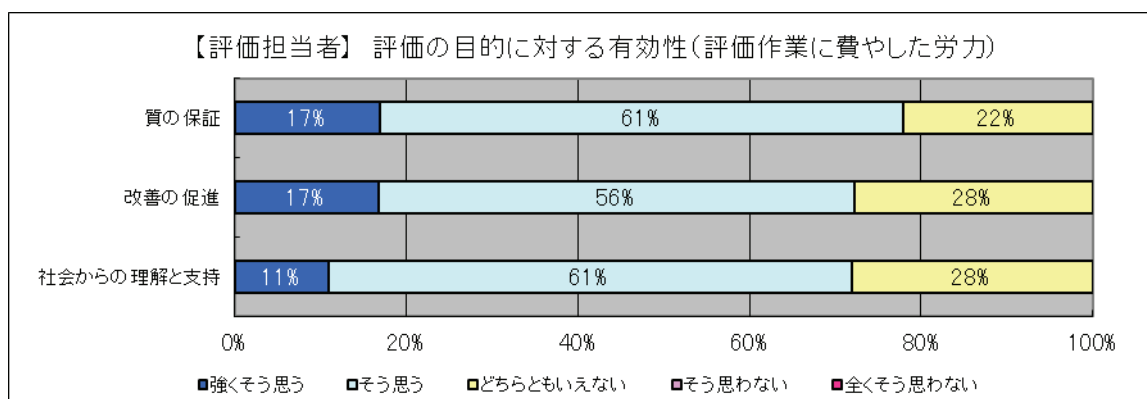
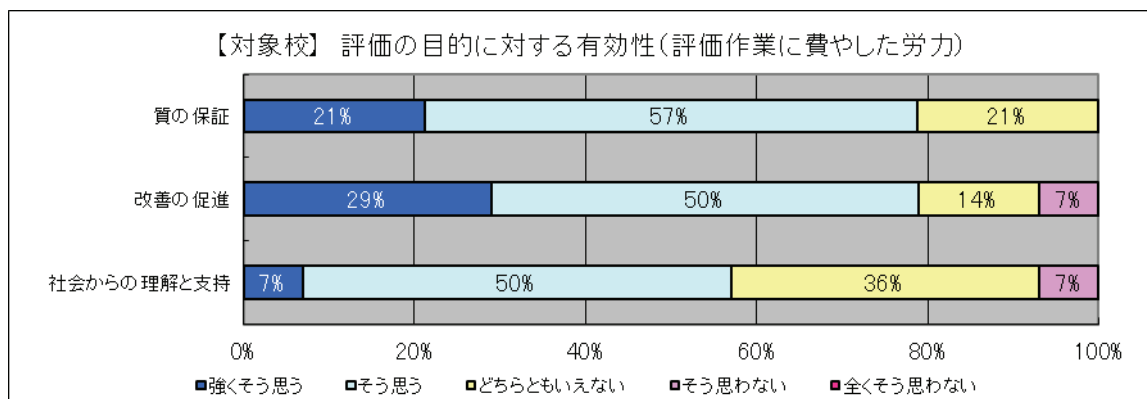
評価に費やした対象校の作業量について、意見の申立てに係る作業量には負担を感じていない対象校が半数程度見られた。一方、訪問調査当日の対応に係る作業量については、一部の対象校から大きいとする回答が寄せられており、自己評価書の作成に係る作業量については、すべての対象校から大きいとする回答が寄せられているため、評価基準及び観点の見直しを含め、評価の効率化に努める必要がある。



評価に費やした評価担当者の作業量について、訪問調査及び評価結果（原案）の作成に係る作業量はおおむね適当であると考えられるが、自己評価書の書面調査に係る作業量については、大きいとする回答が多く寄せられているため、今後も引き続き、評価担当者の負担軽減について検討する必要がある。

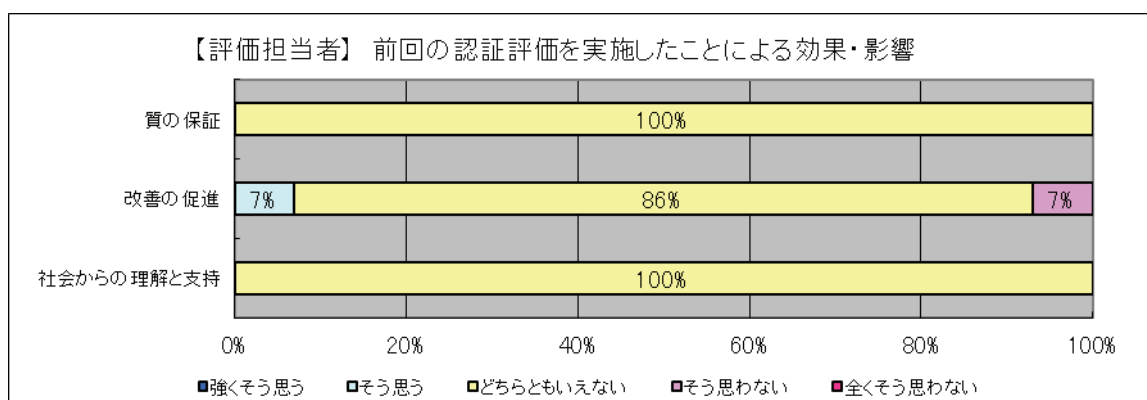
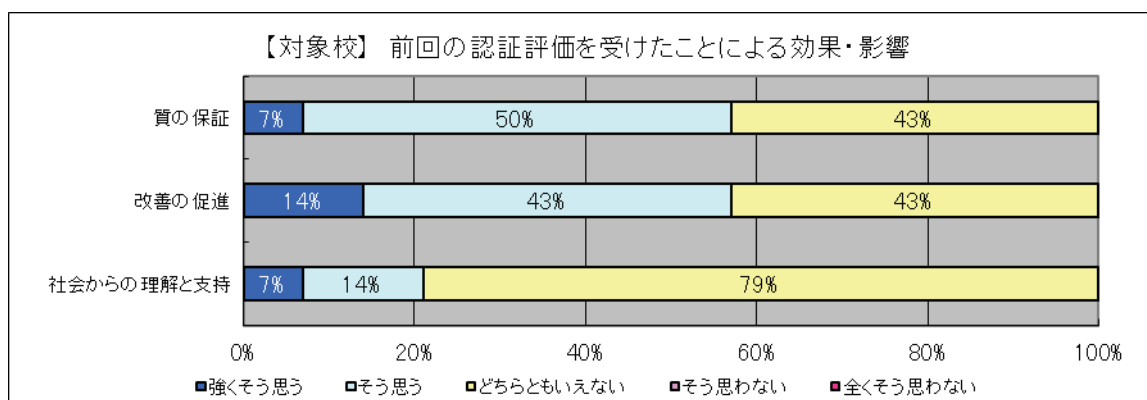


評価の目的に対する有効性について、評価作業に費やした労力は、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らしておおむね見合うものであったと考えられる。

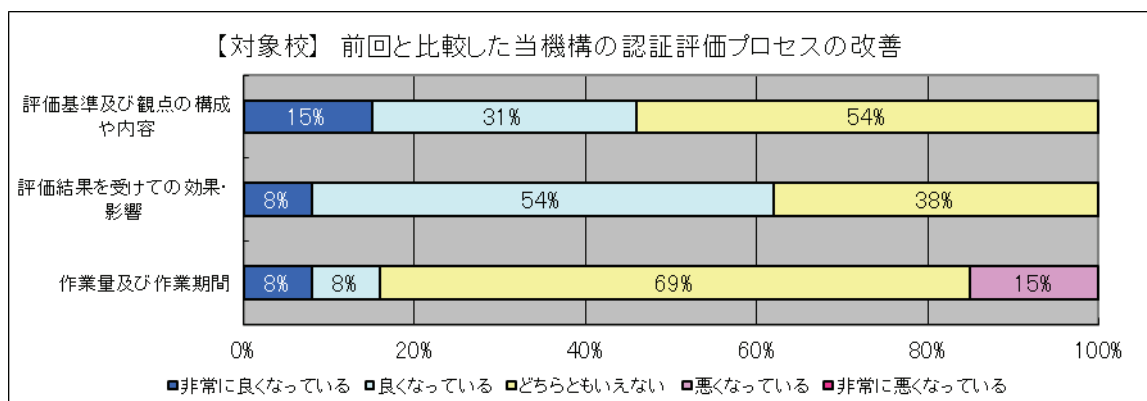


(8) 前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善について

前回の評価を受けたことによる効果・影響について、対象校からは教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」におおむね有効であったと評価されているものの、「社会からの理解と支持」については「どちらともいえない」とする回答が多く寄せられている。評価担当者からはすべての項目について「どちらともいえない」とする回答が寄せられているため、今後、長期的な評価の効果・影響について把握、検証していく必要がある。



前回と比較した当機構の認証評価プロセスの改善について、対象校が前回の評価を受けた時と比較して、評価の効果・影響はおおむね適切なものになったと考えられるが、評価基準及び観点や評価の作業量及び作業期間については肯定的な回答は必ずしも多いとはいえないため、今後も評価システムの改善に努める必要がある。



(9) 評価についての全般的な意見・感想について

(1)～(8)に挙げたもののほか、評価全般について、対象校及び評価担当者から、主に次のような意見・感想があった。

・対象校からの意見・感想について

機構の認証評価を受けた感想として、評価結果は期待通りであったという意見が多く寄せられており、対象校も意識していなかった「優れた点」の指摘を受け、今後も取組を継続していきたいとする感想や、「改善を要する点」の指摘を受け、改善に取り組み、今後の発展につなげるなどの感想が寄せられた。一方で、負担軽減のため、学校の規模に応じた評価の導入を望む意見も寄せられた。

・評価担当者からの意見・感想について

機構の評価に携わったことについて、勉強になった、貴重な経験ができた、評価担当者としての経験を所属組織の運営に活かしたいとする感想がある一方で、評価基準に沿うあまり、画一的・均質化の方向性に傾きかねない難点があると指摘する意見も寄せられた。

3. 対象校及び機構の取組

(1) 認証評価結果を受けた対象校の改善取組例（代表的なものを抽出）

- 学校の構成員への目的の周知状況を把握するため、平成 25 年度後期末にアンケートを実施し、目的等の周知状況を確認した。
- 各授業科目のシラバスにおいて、事前学習、事後展開の具体的な内容が明記されておらず、学生に伝わりにくい状況にあったため、シラバスにおいて事前学習、事後展開の具体的な内容を明記するように書式を変更した。
- 学生が行う学習達成度評価について、各授業の達成度の評価はなされているものの、学習・教育目標の各項目についての直接の達成度評価はなされていなかったため、「学修の記録」を見直し、各授業の達成度だけでなく、学習・教育目標の各項目についても達成度評価が行えるように改善した。また「学修の記録」を 1 年次より全学年全学生を対象に実施するようにした。
- 卒業生や進路先等の関係者からの意見聴取等の結果から、教育の成果や効果を明確に検証するため、平成 25 年度後期末に、学校評価アンケートの実施要領を定め、今後この実施要領に基づいて学校評価アンケートを実施する予定である。
- 教育の状況に関する自己点検・評価を適切に実施するため、平成 25 年度後期末に評価基準を定め、今後この評価基準に基づいて、自己点検・評価を実施していく。
- 全校的な自己評価体制を整え P D C A サイクルが確実に回るように、自己点検評価委員会をより活性化し、シラバスやカリキュラムは全校の教学マネジメントのもとで管理し、P D C A サイクルを実施するよう改善する。

（２）アンケートで寄せられた意見と機構の取組例（代表的なものを抽出）

【意見】

（対象校）

- 資料の取り扱いについて、再提出することを防ぐためにも事前にもう少し明示していただきたい。
- 学内関係者では意識していない長所について指摘を受けることができ、本校の良さを再認識することができた。
- 訪問調査の日程が効率的になり、短縮されたことは、学校にとっても労力の軽減となった。

（評価担当者）

- 対象校の観点に必要な資料に関する認識が足りないケースが散見される。対象校に対する十分な事前説明が必要であると思われる。
- 前回実施の認証評価の問題点等が引き継がれていない場合があり、今回の認証評価結果を、今後の教育に継続して活かしていく仕組みが各学校で必要ではないかと感じた。

【取組例】

寄せられた意見の一部に対して、以下の取組を行っている。

- 認証評価に対する社会からの理解と支持を得るため、機構だけではなく、認証評価機関 12 機関により組織される認証評価機関連絡協議会において、各機関の評価結果の概況を取りまとめて公表するなど、情報発信に努めている。
- 大学機関別認証評価と同様に、関係法令等適合チェックリストや対象校の基本情報を記載した現況票の提出を求めることとした。
- 自己評価書提出前の事前相談を受け付け、共通認識を深めるとともに、対象校に対して必要な資料・データについて改めて依頼している。

参 考 資 料

参考資料 目次

1	認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答） 【対象校】	23
2	認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答） 【評価担当者】	28
3	認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述） 【対象校】	31
4	認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述） 【評価担当者】	52
5	認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】 （高等専門学校用）	63
6	認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】 （高等専門学校用）	87

※ なお、アンケートの自由記述については、原則、原文をそのまま掲載した。（ただし、具体の高等専門学校や個人等が明らかに特定されるものについては、特定できないような表現に改めた上で掲載した。）

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【対象校】
【高等専門学校】

1. 評価基準及び観点について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関1-	① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	3	10	1	0	0	14	4.14	0
		21%	71%	7%	0%	0%	100%		
機関1-	② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	5	7	2	0	0	14	4.21	0
		36%	50%	14%	0%	0%	100%		
機関1-	③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	1	8	5	0	0	14	3.71	0
		7%	57%	36%	0%	0%	100%		
機関1-	④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	6	7	1	0	0	14	4.36	0
		43%	50%	7%	0%	0%	100%		

【2: ある 1: ない】

		2	1	計	平均	未回答
機関1-	⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった	6	8	14	1.43	0
		43%	57%	100%		
機関1-	⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	2	11	13	1.15	1
		15%	85%	100%		

2. 評価の方法及び内容について

(1) 自己評価について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-	① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた	3	8	3	0	0	14	4.00	0
		21%	57%	21%	0%	0%	100%		
機関2-(1)-	② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた	0	6	4	4	0	14	3.14	0
		0%	43%	29%	29%	0%	100%		

【2: 迷った 1: 迷っていない】

		2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-	③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	7	7	14	1.50	0
		50%	50%	100%		

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-	④ 対象校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた	4	7	1	2	0	14	3.93	0
		29%	50%	7%	14%	0%	100%		
機関2-(1)-	⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった	3	7	2	2	0	14	3.79	0
		21%	50%	14%	14%	0%	100%		
機関2-(1)-	⑥ 自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった	3	6	5	0	0	14	3.86	0
		21%	43%	36%	0%	0%	100%		

【2: 参考にした 1: 参考にしなかった】

		2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-	⑦ 自己評価書の作成にあたって、すでに機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考にした	12	2	14	1.86	0
		86%	14%	100%		

(2) 訪問調査等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(2)-	① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	3	7	3	0	1	14	3.79	0
		21%	50%	21%	0%	7%	100%		
機関2-(2)-	② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	5	8	1	0	0	14	4.29	0
		36%	57%	7%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	③ 訪問調査時に機構の評価担当者(事務担当者を除く。以下同様。)が質問した内容は適切であった	5	8	1	0	0	14	4.29	0
		36%	57%	7%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	④ 訪問調査の実施内容として、大学関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった	7	6	0	1	0	14	4.36	0
		50%	43%	0%	7%	0%	100%		
機関2-(2)-	⑤ 訪問調査の実施内容(大学関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)の方法は適切であった	6	7	1	0	0	14	4.36	0
		43%	50%	7%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	⑥ 訪問調査の実施内容(大学関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)に係る時間配分は適切であった	5	4	5	0	0	14	4.00	0
		36%	29%	36%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	⑦ 訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた	6	6	1	1	0	14	4.21	0
		43%	43%	7%	7%	0%	100%		

機関2-(2)	⑧ 訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった	7	6	1	0	0	14	4.43	0
		50%	43%	7%	0%	0%	100%		
機関2-(2)	⑨ 訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う	8	4	2	0	0	14	4.43	0
		57%	29%	14%	0%	0%	100%		

(3)意見の申立てについて

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(3)	① 意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった	5	6	2	0	0	13	4.23	1
		38%	46%	15%	0%	0%	100%		
機関2-(3)	② 「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載するとしたことは適切であった	3	4	4	0	0	11	3.91	3
		27%	36%	36%	0%	0%	100%		
機関2-(3)	③ 対象校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった	1	0	0	0	0	1	5.00	0
		100%	0%	0%	0%	0%	100%		

3. 評価の作業量、スケジュール等について

(1)評価に費やした作業量について

【5:とても大きい～3:適当～1:とても小さい】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(1)	① 自己評価書の作成	9	5	0	0	0	14	4.64	0
		64%	36%	0%	0%	0%	100%		
機関3-(1)	② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	4	9	1	0	0	14	4.21	0
		29%	64%	7%	0%	0%	100%		
機関3-(1)	③ 訪問調査のための事前準備	2	10	2	0	0	14	4.00	0
		14%	71%	14%	0%	0%	100%		
機関3-(1)	④ 訪問調査当日の対応	0	5	9	0	0	14	3.36	0
		0%	36%	64%	0%	0%	100%		
機関3-(1)	⑤ 意見の申立て	0	0	6	3	2	11	2.36	3
		0%	0%	55%	27%	18%	100%		

(2)機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

【5:とても長い～3:適当～1:とても短い】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(2)	① 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	0	1	5	8	0	14	2.50	0
		0%	7%	36%	57%	0%	100%		
機関3-(2)	② 訪問調査のための事前準備	0	2	7	5	0	14	2.79	0
		0%	14%	50%	36%	0%	100%		
機関3-(2)	③ 訪問調査当日の対応	0	2	11	1	0	14	3.07	0
		0%	14%	79%	7%	0%	100%		
機関3-(2)	④ 意見の申立て	0	1	10	1	0	12	3.00	2
		0%	8%	83%	8%	0%	100%		

(3)評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(3)	① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった	3	8	3	0	0	14	4.00	0
		21%	57%	21%	0%	0%	100%		
機関3-(3)	② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった	4	7	2	1	0	14	4.00	0
		29%	50%	14%	7%	0%	100%		
機関3-(3)	③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった	1	7	5	1	0	14	3.57	0
		7%	50%	36%	7%	0%	100%		

(4)評価のスケジュールについて

【2:適当 1:適当でない】

		2	1	計	平均	未回答
機関3-(4)	① 自己評価書の提出時期(6月末)は適当であった	12	2	14	1.86	0
		86%	14%	100%		
機関3-(4)	② 訪問調査の実施時期(10月上旬～12月中旬)は適当であった	13	1	14	1.93	0
		93%	7%	100%		

4. 説明会・研修会等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関4-	① 説明会の配付資料は理解しやすかった	2	7	3	2	0	14	3.64	0
		14%	50%	21%	14%	0%	100%		
機関4-	② 説明会の内容は理解しやすかった	2	7	5	0	0	14	3.79	0
		14%	50%	36%	0%	0%	100%		
機関4-	③ 説明会の内容は役立った	5	8	1	0	0	14	4.29	0
		36%	57%	7%	0%	0%	100%		
機関4-	④ 自己評価担当者等に対する研修会の配布資料は理解しやすかった	3	7	3	1	0	14	3.86	0
		21%	50%	21%	7%	0%	100%		
機関4-	⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった	2	7	5	0	0	14	3.79	0
		14%	50%	36%	0%	0%	100%		
機関4-	⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った	7	4	3	0	0	14	4.29	0
		50%	29%	21%	0%	0%	100%		
機関4-	⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った	5	7	2	0	0	14	4.21	0
		36%	50%	14%	0%	0%	100%		
機関4-	⑧ 機構が行った訪問説明は役立った	0	2	2	0	0	4	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関4-	⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応(質問等に対する対応)は適切であった	4	8	2	0	0	14	4.14	0
		29%	57%	14%	0%	0%	100%		

5. 評価結果(評価報告書)について

(1) 評価報告書の内容等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関5-(1)-	① 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった	4	8	2	0	0	14	4.14	0
		29%	57%	14%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	② 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	4	8	2	0	0	14	4.14	0
		29%	57%	14%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	③ 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得られることを支援・促進するものであった	2	4	8	0	0	14	3.57	0
		14%	29%	57%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	④ 評価報告書の内容は、対象校の目的に照らし適切なものであった	4	7	3	0	0	14	4.07	0
		29%	50%	21%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	⑤ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	6	7	1	0	0	14	4.36	0
		43%	50%	7%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	⑥ 評価報告書の内容は、対象校の規模等(資源・制度など)を考慮したものであった	4	7	3	0	0	14	4.07	0
		29%	50%	21%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた	2	7	5	0	0	14	3.79	0
		14%	50%	36%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	⑧ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった	5	8	1	0	0	14	4.29	0
		36%	57%	7%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった	4	7	3	0	0	14	4.07	0
		29%	50%	21%	0%	0%	100%		

(2) 自己評価書及び評価報告書の公表について

【2: している 1: していない】

		2	1	計	平均	未回答
機関5-(2)-	① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している	7	7	14	1.50	0
		50%	50%	100%		
機関5-(2)-	② 評価報告書をウェブサイトなどで公表している	10	4	14	1.71	0
		71%	29%	100%		

(3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関5-(3)-	① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた	0	0	8	0	1	9	2.78	5
		0%	0%	89%	0%	11%	100%		

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関6-(1)	① 対象校の教育研究活動等について全般的に把握することができた	8	6	0	0	0	14	4.57	0
		57%	43%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	② 対象校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた	5	9	0	0	0	14	4.36	0
		36%	64%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した	0	8	5	1	0	14	3.50	0
		0%	57%	36%	7%	0%	100%		
機関6-(1)	④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した	0	7	6	1	0	14	3.43	0
		0%	50%	43%	7%	0%	100%		
機関6-(1)	⑤ 対象校の教育研究活動等の改善を促進した	2	10	2	0	0	14	4.00	0
		14%	71%	14%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	⑥ 対象校の将来計画の策定に役立った	1	7	5	1	0	14	3.57	0
		7%	50%	36%	7%	0%	100%		
機関6-(1)	⑦ 対象校のマネジメントの改善を促進した	2	9	2	1	0	14	3.86	0
		14%	64%	14%	7%	0%	100%		
機関6-(1)	⑧ 対象校の個性的な取組を促進した	2	3	8	1	0	14	3.43	0
		14%	21%	57%	7%	0%	100%		
機関6-(1)	⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した	2	6	6	0	0	14	3.71	0
		14%	43%	43%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した	2	6	6	0	0	14	3.71	0
		14%	43%	43%	0%	0%	100%		

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関6-(2)	① 対象校の教育研究活動等について全般的に把握することができる	6	8	0	0	0	14	4.43	0
		43%	57%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	② 対象校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる	8	5	1	0	0	14	4.50	0
		57%	36%	7%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する	2	6	6	0	0	14	3.71	0
		14%	43%	43%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する	1	7	5	1	0	14	3.57	0
		7%	50%	36%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑤ 対象校の教育研究活動等の改善を促進する	3	6	4	1	0	14	3.79	0
		21%	43%	29%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑥ 対象校の将来計画の策定に役立つ	1	7	5	1	0	14	3.57	0
		7%	50%	36%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑦ 対象校のマネジメントの改善を促進する	3	7	4	0	0	14	3.93	0
		21%	50%	29%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑧ 対象校の個性的な取組を促進する	2	3	9	0	0	14	3.50	0
		14%	21%	64%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する	1	6	6	1	0	14	3.50	0
		7%	43%	43%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する	1	5	8	0	0	14	3.50	0
		7%	36%	57%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する	2	7	4	1	0	14	3.71	0
		14%	50%	29%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑫ 対象校の教育研究活動等の質が保証される	5	5	3	1	0	14	4.00	0
		36%	36%	21%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑬ 学生(今後入学する学生を含む)の理解と支持が得られる	0	5	9	0	0	14	3.36	0
		0%	36%	64%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑭ 広く社会の理解と支持が得られる	2	5	7	0	0	14	3.64	0
		14%	36%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑮ 他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にする	1	8	4	0	0	13	3.77	1
		8%	62%	31%	0%	0%	100%		

7. 評価結果の活用について

- (1) 今回の評価（機構の評価結果だけでなく、対象校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）について

（省略）

- (2) 今後、次のような事柄に評価報告書を用いる予定について（複数回答可）

- 1 対象校の広報誌に評価結果を掲載する。
- 2 対象校のウェブサイトで評価結果を公表する。
- 3 資金獲得のための申請書に記載する。
- 4 学生募集の際に用いる。
- 5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。
- 6 その他（具体的に）

1	2	3	4	5
2	13	2	3	0

9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関9-	① 前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	1	7	6	0	0	14	3.64	0
		7%	50%	43%	0%	0%	100%		
機関9-	② 前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	2	6	6	0	0	14	3.71	0
		14%	43%	43%	0%	0%	100%		
機関9-	③ 前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	1	2	11	0	0	14	3.29	0
		7%	14%	79%	0%	0%	100%		

10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

【5: 非常に良くなっている～3: どちらとも言えない～1: 非常に悪くなっている】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関10-	① 評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するためにより適切なものとなった	2	4	7	0	0	13	3.62	1
		15%	31%	54%	0%	0%	100%		
機関10-	② 評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった	0	7	5	1	0	13	3.46	1
		0%	54%	38%	8%	0%	100%		
機関10-	③ 訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった	2	7	4	0	0	13	3.85	1
		15%	54%	31%	0%	0%	100%		
機関10-	④ 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった	1	1	9	2	0	13	3.08	1
		8%	8%	69%	15%	0%	100%		
機関10-	⑤ 評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった	1	3	7	2	0	13	3.23	1
		8%	23%	54%	15%	0%	100%		
機関10-	⑥ 説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった	1	7	5	0	0	13	3.69	1
		8%	54%	38%	0%	0%	100%		
機関10-	⑦ 評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった	2	5	6	0	0	13	3.69	1
		15%	38%	46%	0%	0%	100%		
機関10-	⑧ 対象校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった	1	4	7	1	0	13	3.38	1
		8%	31%	54%	8%	0%	100%		
機関10-	⑨ 評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった	0	1	8	2	0	11	2.91	3
		0%	9%	73%	18%	0%	100%		
機関10-	⑩ 自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった	0	7	6	0	0	13	3.54	1
		0%	54%	46%	0%	0%	100%		
機関10-	⑪ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった	1	7	5	0	0	13	3.69	1
		8%	54%	38%	0%	0%	100%		

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【評価担当者】

【高等専門学校】

1. 評価基準及び観点について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評1-	① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	3	16	0	0	0	19	4.16	0
		16%	84%	0%	0%	0%	100%		
評1-	② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	4	15	0	0	0	19	4.21	0
		21%	79%	0%	0%	0%	100%		
評1-	③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	3	14	2	0	0	19	4.05	0
		16%	74%	11%	0%	0%	100%		
評1-	④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	5	14	0	0	0	19	4.26	0
		26%	74%	0%	0%	0%	100%		

【2: ある 1: ない】

		2	1	計	平均	未回答
評1-	⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった	8	11	19	1.42	0
		42%	58%	100%		
評1-	⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	1	17	18	1.06	1
		6%	94%	100%		

2. 評価の方法及び内容・結果について

(1) 自己評価書について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(1)-	① 対象校の自己評価書は理解しやすかった	0	5	9	5	0	19	3	0
		0%	26%	47%	26%	0%	100%		
評2-(1)-	② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた	0	5	12	2	0	19	3.16	0
		0%	26%	63%	11%	0%	100%		
評2-(1)-	③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	0	5	11	3	0	19	3.11	0
		0%	26%	58%	16%	0%	100%		

(2) 書面調査について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(2)-	① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	2	13	4	0	0	19	3.89	0
		11%	68%	21%	0%	0%	100%		
評2-(2)-	② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	1	2	9	7	0	19	2.84	0
		5%	11%	47%	37%	0%	100%		

(3) 訪問調査について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(3)-	① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	1	11	6	1	0	19	3.63	0
		5%	58%	32%	5%	0%	100%		
評2-(3)-	② 訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた	1	16	2	0	0	19	3.95	0
		5%	84%	11%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	③ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった	14	3	0	0	0	17	4.82	0
		82%	18%	0%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	④ 訪問調査の実施内容(高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)の方法は適切であった	7	9	1	0	0	17	4.35	0
		41%	53%	6%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	⑤ 訪問調査の実施内容(高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)に係る時間配分は適切であった	5	10	1	1	0	17	4.12	0
		29%	59%	6%	6%	0%	100%		
評2-(3)-	⑥ 訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた	3	10	4	0	0	17	3.94	0
		18%	59%	24%	0%	0%	100%		

評2-(3)-	⑦ 訪問調査時の機構の評価担当者(事務担当者を除く)の人数や構成は適切であった	7	8	2	0	0	17	4.29	0
		41%	47%	12%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	⑧ 訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった	12	4	1	0	0	17	4.65	0
		71%	24%	6%	0%	0%	100%		

(4) 評価結果について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(4)-	① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	5	12	2	0	0	19	4.16	0
		26%	63%	11%	0%	0%	100%		
評2-(4)-	② 基準1から基準11の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった	6	12	1	0	0	19	4.26	0
		32%	63%	5%	0%	0%	100%		
評2-(4)-	③ 評価結果全体としての分量は適切であった	3	13	2	0	1	19	3.89	0
		16%	68%	11%	0%	5%	100%		
評2-(4)-	④ 評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった	6	13	0	0	0	19	4.32	0
		32%	68%	0%	0%	0%	100%		

3. 研修について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評3-	① 研修の配付資料は理解しやすかった	4	12	1	0	0	17	4.18	0
		24%	71%	6%	0%	0%	100%		
評3-	② 研修の説明内容は理解しやすかった	4	13	0	0	0	17	4.24	0
		24%	76%	0%	0%	0%	100%		
評3-	③ 研修の内容は役立った	9	8	0	0	0	17	4.53	0
		53%	47%	0%	0%	0%	100%		
評3-	④ 自己評価書のサンプルの提示は役立った	5	9	3	0	0	17	4.12	0
		29%	53%	18%	0%	0%	100%		
評3-	⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった	2	10	4	1	0	17	3.76	0
		12%	59%	24%	6%	0%	100%		

4. 評価の作業量、スケジュール等について

(1) 評価に費やした作業量について

【5: とても大きい～3: 適当～1: とても小さい】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(1)-	① 自己評価書の書面調査	8	8	3	0	0	19	4.26	0
		42%	42%	16%	0%	0%	100%		
評4-(1)-	② 訪問調査への参加	1	3	11	1	1	17	3.12	0
		6%	18%	65%	6%	6%	100%		
評4-(1)-	③ 評価結果(原案)の作成	1	2	13	1	1	18	3.06	1
		6%	11%	72%	6%	6%	100%		

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

【5: とても長い～3: 適当～1: とても短い】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(2)-	① 自己評価書の書面調査	0	0	8	9	1	18	2.39	1
		0%	0%	44%	50%	6%	100%		
評4-(2)-	② 訪問調査への参加	0	0	14	2	0	16	2.88	1
		0%	0%	88%	13%	0%	100%		
評4-(2)-	③ 評価結果(原案)の作成	0	0	17	0	0	17	3	2
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(3)-	① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった	3	11	4	0	0	18	3.94	1
		17%	61%	22%	0%	0%	100%		
評4-(3)-	② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった	3	10	5	0	0	18	3.89	1
		17%	56%	28%	0%	0%	100%		

評4-(3)-	③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった	2	11	5	0	0	18	3.83	1
		11%	61%	28%	0%	0%	100%		

(4) 評価作業にかかった時間数について

		計	平均	1校当たりの平均	未回答
評4-(4)-	① 自己評価書の書面調査	16	55.6 時間	23.8 時間/1校	3
評4-(3)-	② 訪問調査の準備	16	12.4 時間	5.07 時間/1校	1
評4-(3)-	③ 評価結果(原案)の作成	16	10.1 時間	3.89 時間/1校	3

5. 評価部会等の運営について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評5-	① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった	5	11	3	0	0	19	4.11	0
		26%	58%	16%	0%	0%	100%		
評5-	② 部会運営は円滑であった	7	11	1	0	0	19	4.32	0
		37%	58%	5%	0%	0%	100%		

6. 評価全般について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評6-	① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う	2	15	2	0	0	19	4	0
		11%	79%	11%	0%	0%	100%		
評6-	② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う	3	13	3	0	0	19	4	0
		16%	68%	16%	0%	0%	100%		
評6-	③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う	2	9	8	0	0	19	3.68	0
		11%	47%	42%	0%	0%	100%		
評6-	④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた	4	10	4	1	0	19	3.89	0
		21%	53%	21%	5%	0%	100%		
評6-	⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	5	8	3	1	0	17	4	0
		29%	47%	18%	6%	0%	100%		
評6-	⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった	10	9	0	0	0	19	4.53	0
		53%	47%	0%	0%	0%	100%		

7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評7-	① 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	0	0	13	0	0	13	3	6
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		
評7-	② 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	0	1	12	1	0	14	3	5
		0%	7%	86%	7%	0%	100%		
評7-	③ 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	0	0	12	0	0	12	3	7
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】
（高等専門学校）

1. 評価基準及び観点について

⑤ 自己評価しにくかった評価基準又は観点について

（基準5）「教育内容及び方法」

- ・ 5－2－①：講義・演習・実験・実習等の授業形態のバランスが適切であるかについては、何をもって適切かを示す基準がないため、自己評価が難しかった。

5－6－①：同上。

（基準6）「教育の成果」

- ・ 基準6で問われる教育の成果。教育の成果は容易に定義されるもの、卒業生等からの意見聴取などで評価することは難しい。
- ・ 基準6
- ・ 観点6－1－⑤ 卒業生に対するアンケートが古い結果のみであり、自己評価しにくい箇所であった。

（基準9）「教育の質の向上及び改善のためのシステム」

- ・ 基準9

（その他）

- ・ 全体的に「適切」、「活用」といった言い回しが何をどこまで指しているのかはつきりしない。どうなれば適切なのか？どうすれば活用しているといえるのか？

⑥ 重複していると思われる評価基準又は観点について

（基準7）「学生支援等」

- ・ 例えば、次の2つの観点は学習と生活面に分けて観点が設定されているが、学習と生活支援は同時に行われている場合が多く、統合した方が適切な記述が可能になるものと考えられる。

観点7－1－④：特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

観点7－2－②：特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

（その他）

- ・ 基準3－2－①と基準11－2－①。

○ 評価基準及び観点についての意見、感想等

- ・ 教育・研究活動及び地域貢献のいずれの点においても適切な評価基準や観点が提示されている。
- ・ 選択的評価事項についても、各高専で必ず取り組んでいる事項であり、必須の基準として（例えば、基準 12、13 として追加してでも）位置付けすればよいと考える。
- ・ 学校や学科の教育目標に関する学生の理解に係る評価基準について、学生が教育目標を理解しているかどうかについては、学生は教育目標を学ぶために在学しているわけではなく、教育課程で提供される学問や技術の修得を目的に入学してきていることを考えれば、学生の教育目標自体の知識の有無を評価基準とすることは適当ではなく、教育提供側としての学校としては教育目標を十分に学生に周知して学校を選んで頂くことは重要と考えますので、むしろ、教育目標を周知している機会の充実度を評価基準とすべきではないでしょうか。学生が教育目標を理解して学べという姿勢は、画一化を進めロボットを生産しているようで、違和感が大いにあります。

- ・ 観点 11－2－①における自己点検・評価において、本校は高専機構の下部機関にあたり、機構本部が作成した中期目標、中期計画、年度計画に基づき教育研究活動を行っている。

本校は上記年度計画等の実施状況について自己点検・評価を行うものと理解しているが、これとは異なる観点による自己評価を要請されることは、業務負荷が増えるばかりでなく、評価のための評価となりうる可能性を否めない。

- ・ 評価基準及び観点が多く、詳細に個別に記述するより、まとめた方が適切と考えられるものが散見され、評価基準や自己点検の観点の集約が望まれる。例えば、観点 6－1－①と観点 6－1－②については、どちらも養成しようとする人材に対して、学校として卒業時に身につける資質・能力の達成度を評価しており、これらを個別に分けて記述する必要性は余り感じられない。

大学と異なり、個々の高等専門学校は非常に小さな高等教育機関で、事務および教員組織も極めて小規模であるため、基準に対する観点の説明に要求される内容を簡素化または絞り込む必要があると考えられる。

2. 評価の方法及び内容について

(1) 自己評価について

③ 自己評価書に添付する資料で迷った点について

- ・ 個人情報（氏名、メールアドレス等）を目隠しするとほとんど黒塗りのものとなり、裏付け資料として意味があるものか、悩むような場面があった。
- ・ 個人情報や著作権の取り扱いに関する明確なガイドラインが定められていないため、執筆担当で事前打ち合わせを行い、本校の自己評価書執筆に当たってガイドラインを定めて執筆に当たった。
- ・ 成績評価資料の内容と量。
- ・ 事前に配布された各種資料等の例などにこだわった点。
- ・ 少ないより多い方が無難と思うが、多すぎると大部になってしまうので、困る。
- ・ 5－2－①：講義・演習・実験・実習等の授業形態のバランスを示すデータ。

5-6-①：同上。

- ・ 認証評価としての添付資料の妥当性、及び文章の妥当性の判断に迷った。また、字数制限もあり、記載内容の推敲に多くの時間を費やす要因となった。また、追加説明で詳細な説明文書を作成した。この部分は公表されないにしても、それを勘案すると、結果的には各観点の説明は、字数制限を超えている。

また、参考資料として自己評価書のイメージを配布いただいているが、これをより充実させたものとしての作成が望まれる。

⑥ 自己評価書の文字数制限に関し、必要と思われる文字数について

- ・ 添付資料も制限すべき。

○ 自己評価についての意見、感想等

- ・ 事前に配布された資料、「自己評価イメージ」の影響を資料作成当初に受けた。
- ・ 全般的に資料が多く、本認証評価のために作成したものも多くあった。学校の規模等も考慮して、日常管理できる範囲の資料や自己評価の項目を定めるべき。
- ・ 日ごろから認証評価受審に向けた資料づくりをすることが肝要であると感じた。
- ・ 自己評価書の作成が遅れていたため、前年度に受審した他高専の評価結果を参考にした。

自己評価書の作成と並行して添付資料の選定を行ったので、効率よく作業を進めることができた。

また、自己評価書（案）の段階で、大学評価・学位授与機構に事前相談を行うことができた。相談することにより、本校の課題や改善点が明確になり、その後の自己評価書の作成や教育改善に大いに役立った。

- ・ 自己評価書の中の資料として、新聞記事の扱いについて、「分析に当たっての留意事項等について」には、根拠となる資料・データ等の例に挙げられておりますが、最終的には内容を見えなくするようとの指示があり、対応がちぐはぐになってしまった。

資料の取り扱いについて、再提出することを防ぐためにも事前にもう少し明示していただきたい。

- ・ 第三者による評価について、自己点検評価報告書の記載内容について評価を受けなければいけないこととされていますが、主要な項目あるいは学校が課題と考えている項目についての評価を受ければ足りるようにした方が良いでしょう。貴機構による評価との完全重複が避けられるとともに、第三者評価を行って頂く外部有識者の作業軽減を図ることができます。（非常に多忙な外部有識者に自己点検評価報告書の記載内容全部についての評価を依頼することはなかなか難しいのが実情です。）

- ・ 日頃の見組の不十分な点を洗い出せたので、大変ためになった。
- ・ 自己評価書の文章による説明は簡素化されているが、記述内容を説明するために多大な説明資料を添付している。特にアンケート等の結果を踏まえて自己評価を要求される場合もあり、どの程度の資料を要求しているのかを、各観点で明確にさせていただけるよう希望する。

(2) 訪問調査等について

④ 訪問調査の実施内容の適切でなかったか点について

- ・ 卒業生との面談は適切でない。少数の卒業生の意見であること、社会人を平日学校に呼ぶことは難しい。(学校が都市部でないことから)
- ・ 2又は1の回答ではないのですが、卒業生との面談については、本校に呼び戻し宿泊もさせないといけなかったので、卒業生への質問状などの別の形式が可能かどうか検討していただけたらありがたい。

○ 訪問調査等についての意見、感想等

- ・ 作成した自己評価書を精読して頂き、改善点に対して的確なご指摘を頂いた。
- ・ 自己評価書の説明が不十分な点について、訪問調査時の確認事項として説明を求められた。しかし、訪問調査時の確認事項として課題や改善点の情報を共有することができたので、事前準備をすることができた。
- ・ 訪問調査後に補足資料の提出や補足説明を求められたが、提出期限が短く十分な対応ができなかった。
- ・ 訪問調査時には、委員から、学内関係者では当然とされていて、あまり意識していない長所について、指摘を受けることができ、本校の良さを再認識することができて、大変ありがたく思います。
- ・ 訪問調査における卒業生及び在学生への面談は、評価準備事務が煩雑で、評価委員の労力を要するのに対し、委員の主観性、サンプル数などから、その検証効果は疑問であり、廃止すべきと思われます。学校のアウトプット（卒業生）についての評価は、例えば進路先（企業、大学院）の人事担当者などへのアンケート評価を行う方が、より客観的な評価になるのではないのでしょうか。
- ・ 参考になるサジェスションを多くいただきありがたかった。
- ・ 訪問調査の実施によって、書面調査では少なからず誤解を生じていた点を適切に修正することができた。また訪問調査の開始に際して学校長への事前挨拶という形で、書面調査による評価結果のあらましと訪問調査による確認事項の概要を伝えていただいたことで、調査委員の評価全般に対する姿勢あるいは真意を理解することができた。このことによって、評価者と評価される側という対立した関係でなく、互いに協力関係にあるという意識のもとに、訪問調査の円滑な実施ができたと思う。その意味においてこの事前打合わせは大変有意義なものといえよう。

3. 評価の作業量、スケジュール等について

(1) 評価に費やした作業量について

○ 評価に費やした作業量についての意見、感想等

(具体的にどのような作業において作業量が大きかったかについて)

- ・ ① 自己評価書の作成に係る作業において
 - ・ 担当（各基準等）毎に分担を決めて作業を行ったが、最終的なとりまとめの作業に時間を要

した。

- ・ 自己評価書の提出部数が多いため、印刷に要する時間を要した。（提出部数の削減の検討をお願いしたい。）
- ・ 自己評価書の作成にかかる作業量がとても大きく、負担を感じた。適正な評価を行うためには必要だということだと思うが、次回の審査までに、観点数の削減も検討してほしいと思う。
- ・ ① 自己評価書の作成に関して
学校として十分なエビデンスは保存してあるが、①大学評価・学位授与機構が行う機関別認証評価の評価基準と対応させてエビデンスを保管している訳ではないこと、②あるエビデンスが複数の観点を評価するために用いられる場合があること、などから、各観点的エビデンスをリストアップし、整理するのに多大な時間を要した。
- ・ ② 訪問調査前の「訪問調査時の確認事項」への対応に関して
今回の受審で提示された確認事項の項目は百件を超える膨大なものであったのに対し、回答提出まで3週間しかなかったため、作業は大変なものになった。
- ・ グラフ、データー等の資料作り。
- ・ ①について、資料を揃えるのも大変だが、全体の統一性を保ったり、重複部分を除いたり、表現、出典、字体など体裁を整えるのが大変だった。
- ・ ① 添付資料の収集と作成。
- ・ ② 同上。
- ・ 自己評価書の作成について、エビデンスを多くそろえようとしたため、膨大な作業量になった。エビデンスの必要性は理解できるが、自己評価書の分量が少なくなるような方向での改善が図られればありがたい。
- ・ ① 自己点検、FDが余り活発ではなく、足りないデータが多かったため、評価書作成の際、大変苦労した。
- ・ ② 評価書が十分とは言えなかったため、確認事項が多かった。
- ・ ③ 協力的でない人間がどうしてもいるので、ぎりぎりまで準備が必要だった。また、答案ファイル閲覧用PCをかき集めたりしたので、設定に手間取ってしまった。
- ・ 自己評価書の説明文章の作成、資料の収集、アンケート調査に対して、多大な時間を必要とした。高等専門学校という小規模組織の高等教育機関にとっては、作業量が膨大であり、より簡素化する方向で御検討をお願いしたい。

（２）機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

○ 機構が設定した作業期間についての意見、感想等

- ・ 特に①は数週間しなくて大変だった。
授業や実験等、通常の業務をやりながら対応していることを考慮してほしい。
- ・ 訪問調査時の確認事項を受理してから訪問調査までの期間が短い。
自己評価書の提出を5月末に早めてでも、上記期間をもう少し確保していただきたい。

- ・ 「訪問調査時の確認事項」が示されてから回答までの時間が、校内手続きを行うにあたり短時日であったと思われます。

また、面談対象者の選定等についても、外部との連絡を含め、対象者や関係者の予定等があるため、少なくとも1か月は作業期間を確保できれば助かります。

なお、本校においては、意見申立は行わなかったため問題とはなっておりませんが、これも適正な校内手続きを経るには短時日であると思われます。

貴機構内における審査や手続き等に時間も要するかとは思われますが、上記3点に関し、回答までの時間的な余裕をご配慮いただきたいと思います。

- ・ 自己評価書で不明な点をあらかじめ、文書による回答を要求される。各学校の負担軽減のため、訪問調査時に御確認頂くよう御検討願いたい。

（３）評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

○ 評価作業に費やした労力についての意見、感想等

- ・ 今回の作業に費やした労力について、教育研究活動等の質の保証、改善を進める、社会から理解と支持を得るという評価の目的に、ある程度本校として見合うものであったと思う。
- ・ 評価作業が少なく済むような工夫が欲しい。
- ・ 訪問調査時の確認事項を含めた最終報告書が社会に広く公表されないのに理解が得られるのだろうか？
- ・ 自己評価書を作成するにつれて、本校の改善点がより明確化された点はよかった。
ただ、教育研究活動全般について改善を行っている途中であったことから、「不十分」と自己評価している中での評価作業は辛いものがあつた。
- ・ 本校の自己評価書は少人数のワーキンググループで作成した。WGの利点は、毎週、意見交換を行うことで作業効率を図るとともに、共通理解を深める等、WGメンバーには作業付加がかかったが、高専全体での評価作業に費やした労力は比較的小さかった。その結果、自己評価書の作成だけに関して言えば、学内構成員の認証評価に対する十分な関心を得ることができなかった。しかし、訪問調査時の確認事項や訪問調査時の対応では、学内に周知を図り、拡大自己点検・評価委員会を開催し、参加人数を広げた会議で十分な議論を行い、情報の共有化と評価作業の効率化を図った。
- ・ 校内に認証評価WGを設置して対応したが、平素保管している資料以外にまとめる資料が必要であつたため、作業量が増えてしまった。
- ・ 現在、各機関における評価は、機関独自の自己評価や外部評価等を実施している状況であり、各機関が機関の目標、目的を達成するために実施しているところです。

近年における業務量の増加や社会からの要請は、益々大きくなってきております。

このような状況の中、学校教育法により認証評価を受審することが定められておりますが、この認証評価を受審することが、各機関の教育研究活動等の質の保証や改善を進めることに異論はございませんが、社会からの理解と支持を得ることに関しては、認証評価の社会における認知度がどれほどのものであるか、また、その影響力がどれほどあるのか、いささか懐疑的にならざるを得ませ

ん。

以上のことから、認証評価において評価業務に費やした労力が、評価の目的に見合うものであるかは、疑問が残るところです。

- ・ 本評価を通して、規定に則った高等教育機関に相応しい運営がなされ、学生教育の質の向上が図られているか、を再確認する事が出来た。改善を必要とする指摘事項は適切な内容であり、改善により今後の更なる教育充実へ繋がるものと考えられる。

（４）評価のスケジュールについて

○ 評価のスケジュールについての意見、感想等

- ・ ①自己評価書の提出時期（６月末）は、年度初めの慌ただしい時期でもあり、あと１か月程度余裕があれば良いと思います。
- ・ 自己評価書の作成にかかる労力を考えると、提出期限を伸ばしてほしいところではあるが、執筆担当者は通常業務にプラスして自己評価書を作成しているため、学校行事も考えた場合、現状のスケジュールで対応する以外はないと思う。
- ・ 夏休み中とか通常業務に支障が少ないときにしてほしい。
- ・ ２日間の評価スケジュールは適切であった。
- ・ 訪問調査時の確認事項受理から訪問調査実施までの期間確保のため、自己評価書の提出は５月末でよいと思う。

４．説明会・研修会等について

○ 説明会・研修会等についての意見、感想等

- ・ 改正点に関する説明では、これまでとの違いが抜き出されて説明されていたので、過去の資料を参考にして報告書を作成するときの参考になった。
- ・ 説明会・研修会の資料等を事前に電子ファイル等で配布できないであろうか。時間的・予算的にも厳しい現状では、より内容を理解し、問題点を明確化した上で望むことができればと思う。
- ・ 認証評価に関する説明会、自己評価担当者等に対する研修会の資料は、機構ウェブサイトに掲載されている。説明会や研修会に参加しなかった者にも、十分役立つ内容の説明資料となっている。
- ・ 本校からは、２年間にわたり、教員２名、事務職員２名が参加させていただいたので良かった。
- ・ 訪問説明に来てもらい、全教職員が理解を深めておくべきだった。

５．評価結果（評価報告書）について

（１）評価報告書の内容等について

○ 評価結果（評価報告書）についての意見、感想等

- ・ すでに自己評価をしているところではあるが、本校の現状とその改善点に関し、適切な報告を頂

いた。

- ・ 適切な評価結果を頂いたと考えている。
- ・ 評価結果が広く公表されることで、高等教育機関としてのシステムの健全性や独自性が明らかとなり、改善および発展に繋がるものと考えられる。

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

○ 自己評価を行ったことによる効果・影響に関連しての意見、感想等

- ・ 自己評価を全員で取り組む方法があれば良い。学校全体には、まだ浸透していない。
- ・ (1) は教員によって意見が異なると思う。直接の担当者にはまちがいなく効果はあったが、一般の教員にはどうか？
- ・ 本校の改善点がある程度まで、教職員で共有することができた。
- ・ 今回の認証評価受審に当たっては、校内にWGを設置して多くの教職員に参加してもらい、全教職員への周知を図りながらエビデンスの提供を全学的にできたことは、PDCAを機能させる意味でも良い効果があったと思う。
- ・ 今回の自己評価に際して、法令で新たに制定された事項等について再確認が出来、また、これまでの教育システムおよび学校運営システムの見直しを計る事が出来、非常に有用であった。

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

○ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連しての意見、感想等

- ・ 本校の改善点がある程度まで教職員で共有することができた。
- ・ 優れた点として挙げられた事項は更なる発展を目指し、改善を要する点として挙げられた事項に対しては今後改善を図っていくこととして全学に周知したので、教職員の意識改革にもつながったと考えている。
- ・ 今回の評価を基に、毎年の自己点検システムが有用に機能し、更なる本校の教育研究の発展、および学校運営の円滑化に繋がるものと考えられる。

7. 評価結果の活用について

① 今回の評価を契機として、何らかの変更・改善を予定しているもの（又は実施済みのもの）について

○ 主要な変更・改善事項及び変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度について

※参考度：【5：非常に参考になった～3：参考になった～1：あまり参考にならなかった】

（基準1）「高等専門学校の目的」

- ・【課題】【基準1】に関して、学校・学科の教育目標や関連する用語の定義が十分整備されていない。

準学士課程・専攻科課程の目的の違いがわかりづらく、十分周知されていない。

【変更・改善】学習・教育目標と各科目との対応を整理し、学生・教職員にわかりやすい形で周知するよう検討する。【4】

・【課題】教育目標等を学校の構成員に周知する取組は行われているものの、学生及び非常勤講師への周知度は低い状況にある。

【変更・改善】教育目標の周知の機会を増やしている。具体的には、全学生が集まる学校行事等での周知、校内の学生が集まる箇所や教室内での掲示、配布物による周知等である。【3】

・【課題】教育目標が時流に合っていない。

【変更・改善】現代に合った教育目標を作る。【5】

・【課題】学校の構成員への目的の周知状況について、学校として把握する取り組みが十分とは言えない。

【変更・改善】平成25年度後期末に、目的等の周知状況を把握するアンケート調査を実施し、目的等の周知状況を確認した。今後も継続して実施する予定である。【5】

・【課題】教育理念や教育目標に関する周知を図る取り組みはなされているものの、準学士課程、専攻科課程ともに学生の周知状況は十分とは言えない。

【変更・改善】年度初めに、全学生および教職員を対象としたガイダンスを開催して周知・徹底を図る。【5】

・【課題】準学士課程の学習・教育について、高学年と比較して低学年の周知状況が低く表れている。

【変更・改善】新入生に学生手帳（学習・教育目標を記載）を配付するとともに、教務主事が導入教育の最初の授業で、高専手帳を活用して学習・教育目標を説明し、理解を深めた。【3】

・【課題】学生に対する教育目標の周知状況が十分でない学科が一部みられる。また、教職員に対する教育目標の周知状況を把握する取組が実施されていない。

【変更・改善】学生に対する教育目標（本科・専攻科・JABEE目標）の周知方法を改善する予定である。また、アドミッション・ポリシーに対応した入学者選抜基本方針の策定および周知方法を検討する予定である。【3】

・【課題】準学士課程の学生においては、教育目標、一般科目及び学科の教育目標の認知度は十分とは言えない。

【変更・改善】教育理念、教育目標を各教室に掲示する。【5】

（基準2）「教育組織（実施体制）」

・【課題】一般科目及び専門科目を担当する教員による科目間連携は一部で実施されているものの、その組織的な取組は十分とは言えない。

【変更・改善】教務会議が主体となって、FD教科目連携協議会を新たに立ち上げるとともに、授業参観の実施要領を改善する取組を開始した。【4】

（基準3）「教員及び教育支援者等」

- ・【課題】教員の採用や昇格等は一定の手続きに基づいて実施されているものの、それらに関する基準や規定が明文化されていない。

【変更・改善】教員の採用や昇格基準を明文化する予定である。【3】

(基準4)「学生の受入」

- ・【課題】準学士課程の入学者選抜の基本方針は明文化されているものの、不明瞭な点がある。

【変更・改善】入学者選抜の基本方針を見直すとともに、学外に公開することとしている。【5】

- ・【課題】入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）では、入学選抜の基本方針が明示されていない。

【変更・改善】入学者選抜の基本方針を含んだアドミッション・ポリシーを制定する予定である。

【4】

- ・【課題】実入学人数の改善に資する取組が行われ、成果が表れつつあるものの、5年間の平均をみると一部の専攻において、実入学人数が定員を下回る状況になっている。

【変更・改善】専攻科委員会を中心に、在学生を中心に専攻科生による説明等のPRを強化することとしている。【4】

- ・【課題】入学者受入方針に対する教職員の周知状況を把握する取組が実施されていない。

【変更・改善】教員シラバス活用・アドミッション・ポリシー周知度・目的目標周知度アンケートを実施する予定である。【3】

- ・【課題】入学者受け入れ方針の中に、入学者選抜の基本方針に関連する表現が含まれているものの、今後、入学者選抜の基本方針のさらなる明確化が必要である。

【変更・改善】受入方針の変更を計画している。【5】

(基準5)「教育内容及び方法」

- ・【課題】学修単位科目について、全体的に自学自習時間が必要である旨の説明はされているものの、各授業科目のシラバスにおいては、事前学習、事後展開の具体的内容が明記されておらず、学生に伝わりにくい状況にある。

【変更・改善】平成26年度シラバスにおいて、学修単位科目について、事前学習、事後展開の具体的内容を明記し、学生に伝わるよう改善に取り組んだ。【4】

- ・【課題】専攻科課程の一部科目において、複数年度にわたり、同一の試験問題が出題されている。

【変更・改善】専攻科課程に限らず、同一問題で試験を行うことのないように教務主事からの指導と全教員に対して通達を行った。【4】

- ・【課題】学士課程、専攻科課程とも、成績評価の妥当性を検証できる資料が十分にまとめられていない科目が散見される。

【変更・改善】1～3年生の成績資料については、研究室での、4年生以上については、保存庫での、全答案の保存を平成25年度後期期末試験から実施し始めた。なお、平成26年度からはPDF保存の環境を整えることになっている。【5】

- ・【課題】準学士課程の3年次以下において、準学士課程全体の学習・教育到達目標に到達するための授業科目の流れがわかりにくいものとなっている。
- 【変更・改善】科目流れ図及びカリキュラムマップを作成し、平成26年度初めに配布する予定であり、平成27年度以降はシラバスに掲載する予定である。【5】
- ・【課題】準学士課程の一部科目において、複数年度にわたり同一の試験問題が出題されている。
- 【変更・改善】試験問題のチェック体制を構築し、平成25年度後期から実施しており、継続して実施する予定である。【5】
- ・【課題】準学士課程では、授業科目の配置に関して、学習・教育目標を達成するための具体的授業科目群を関連付けるよう改善を図っているものの学生には十分には伝えられていない。
- 【変更・改善】平成26年度シラバスの作成では、様式を変更するなどし、学生への周知を工夫することとしている。【5】
- ・【課題】準学士課程、専攻科課程ともに学修単位科目に関してシラバス冒頭に自学・自習の必要性について記述されているものの、各授業科目のシラバスにおいては、事前学習、事後展開の具体的な内容が明記されておらず、学生に伝わりにくい状況にある。
- 【変更・改善】学修単位科目については、シラバスにおいて事前学習、事後展開の具体的な内容を明記するように書式を変更した。【5】
- ・【課題】具体的な科目配置に一部不十分な点が見られる。
- 【変更・改善】平成26年度から科目配置を見直した。【3】
- ・【課題】準学士課程、専攻科課程ともに複数年次にわたり、同一の試験問題が出題されている科目が散見される。
- 【変更・改善】教員会議において、教員に試験問題作成の注意喚起を行うとともに、教育点検・評価委員会が実施している試験問題の事後確認でも再確認を実施することとした。【3】
- ・【課題】準学士課程の各授業科目のシラバスにおいて、教育目標等にどのように対応しているのかの記載や事前学習、事後展開の具体的な内容の記載がなく、教育課程における各授業科目の位置付けが学生に伝わりにくい状況にある。
- 【変更・改善】教務委員会において、シラバスの様式改善を検討し、平成26年度のシラバスから改善を図っている。【5】
- ・【課題】準学士課程の一部科目において、複数年度にわたり同一の問題が出題されている。
- 【変更・改善】定期試験問題年度類似確認体制を確立する予定である。【3】
- ・【課題】専攻科課程の一部のコースにおいて、修了に必要な単位を修得しても選択科目の取得の仕方によっては教育目標の小項目の達成が保証されない教育課程の編成となっている。
- 【変更・改善】専攻科・JABEE目的・目標別の科目配置図を整理し、検討する予定である。【3】
- ・【課題】教育の成果や効果に関する学校としての評価に際して、各学生が必要単位数を修得することをもって学習・教育目標項目の達成評価をしているものの、その評価方法は専攻科課程の一部のコースについては、教育課程の編成からみて不十分である。
- 【変更・改善】専攻科・JABEE目的・目標別の科目配置図を整理し、検討する予定である。【3】

- ・【課題】専攻科課程の一部科目において、複数年度にわたり、同一の問題が出題されている。
【変更・改善】対応を検討中。【５】
- ・【課題】専攻科課程の授業科目の体系的な編成については、学生に分かりにくい表記となっている。
【変更・改善】専攻科の履修の手引きを認証評価に対応できるように改善する。（専攻科２年間の科目系統図も入れ込む。また、①から④までの教育目標を入れる。）【５】
- ・【課題】準学士課程、専攻科課程ともに、一部の科目において、複数年度にわたり同一の試験問題が出題されている。
【変更・改善】毎年全く同じ試験問題の作成に関しては、誰かがチェックする仕組みを設ける。【５】
- ・【課題】専攻科課程において、専攻科の教育目標に対して、インターンシップの参加者が少ない状況にある。
【変更・改善】インターンシップ参加者を増加させる取り組みを検討する。【３】

（基準６）「教育の成果」

- ・【課題】学生が行う学習達成度評価について、各授業の達成度の評価はなされているものの、学習・教育目標の各項目についての直接の達成度評価はなされていない。
【変更・改善】「学修の記録」を見直し、各授業の達成度だけでなく、学習・教育目標の各項目についても達成度評価が行えるように改善した。また「学修の記録」を１年次より全学年全学生を対象に実施するようにした。【５】
- ・【課題】【基準６】に関して、教育成果に関するアンケートの内容と、本校の学習・教育目標と整合性が取れていない。
【変更・改善】早速本年度の卒業時のアンケートから改善しました。【４】
- ・【課題】準学士課程の目標達成度の評価はクラス平均値のみを用いて実施しており、個々の学生の達成状況についての判断が不明瞭である。
【変更・改善】個々の学生の達成状況の判定を行うべく、評価方法とその書式を見直している。【４】
- ・【課題】準学士課程における、卒業時に学生が身に付ける学力や資質・能力の達成状況を把握評価する方法については、教育目標の項目ごとの評価に基づいていないという点で、不明瞭である。
【変更・改善】平成 25 年度後期末に、学校評価アンケート実施要領を策定し、学習・教育到達目標ごとの評価を実施することを明確にした。以後、この実施要領に基づいて学校評価アンケートを実施する予定である。【５】
- ・【課題】卒業生や進路先等の関係者から意見聴取等の取り組みを実施しているものの、その結果から判断して教育の成果や効果が上がっているかについての検証は十分とは言えない。
【変更・改善】教育の成果や効果を明確に検証するため、平成 25 年度後期末に、学校評価アンケートの実施要領を定めた。以後、この実施要領に基づいて学校評価アンケートを実施する予定である。【５】
- ・【課題】準学士課程、専攻科課程ともに、卒業（修了）時に身に付ける学力・資質能力の達成状況

を把握評価する手法については、教育目標の項目ごとに達成状況を把握評価する方法という点では、不明瞭な点がある。

【変更・改善】今後、方法について検討していく予定である。【4】

- ・【課題】カリキュラムの再構築に向けて教育改革検討プロジェクトを設置して、改善の取組みを進めているものの、準学士課程の教育目標の達成状況を把握・評価する方法には、必修選択科目や選択科目の修得状況との関連で不明瞭な点がある。

【変更・改善】カリキュラムの見直しを行い、具体的到達目標の設定とその達成度評価のために必要な必修科目の設定を検討する。【5】

- ・【課題】専攻科課程の教育目標の達成状況を把握・評価する方法としているプログラム修了要件には、準学士課程で達成可能な内容を含んでおり、一部不明瞭な点がある。

【変更・改善】専攻科およびJ A B E Eプログラムの1本化を図り、プログラム修了要件を統一して明確化する。【5】

- ・【課題】教育目標の達成状況に関する、直接の意見聴取ではないが、卒業生アンケートにおいて満足度の調査がなされており、英語についての満足度が低く表れている。

【変更・改善】国際交流活動を充実し、英語学習の重要性の意識付けを増すとともに、学年ごとの具体的到達目標を設定して英語能力の向上を図る。【4】

- ・【課題】学生が行う学習達成度評価について、学習・教育目標についての直接的学習達成度評価は実施されていない。

【変更・改善】5年生の満足度アンケートを見直し、平成25年度から学生が卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成状況など、学習・教育目標についての直接的な学習達成度評価を確認できるアンケート調査を実施した。【3】

- ・【課題】学生を対象とした教育目的の達成度に関する自己評価アンケートを実施しており、また卒業（修了）生や進路先等の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力、及び卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する取組を学科ごとに行っているものの、それらの集計結果から教育の成果や効果が上がっているかについての学校としての評価が不明瞭である。

【変更・改善】各種アンケート基準を策定し、アンケート結果を分析・対策を検討する実施体制を確立する予定である。【3】

- ・【課題】専攻科課程において、修了時に身に付ける学力、資質、能力の達成状況を把握評価する方法については、一部不明瞭な点がある。

【変更・改善】平成26年度から、科目と目標の対応を変更し、不明瞭な点は改善した。【5】

- ・【課題】進路先の関係者からの意見聴取では、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力に関し、教育目標の達成状況についての直接の意見聴取がなされていない。

【変更・改善】平成26年1月から直接の意見聴取を行っている。平成26年6月に集計・分析する予定。【5】

- ・【課題】学生が行う学習達成度評価、卒業（修了）生による学習達成度評価において、教育目標（E）

の達成状況が低くなっている。

【変更・改善】国際交流、海外派遣を増やしていく予定である。【5】

- ・【課題】授業内容の改善の取組がなされているものの、機械工学科卒業生アンケートでは、「メカトロニクス技術とシステムデザイン能力が身に付いた」とする学生の割合が低く表れている。

英語によるコミュニケーション能力の育成に関する改善が図られているものの、企業及び大学院などの専攻科修了生の進路先の関係者に対するアンケートでは、「英語による基礎的なコミュニケーションができる」、「基礎的な技術英語の文章を書くことができる」などの項目で低い評価となっている。

【変更・改善】教育理念、教育目標を各教室に掲示し、授業評価アンケートの内容を検討する。

(1)教育目標内容を周知しているかの項目を入れる。

(2)シラバスの利用（一度は見たことがあるか）を聞く項目を入れる。

(3)授業時間を十分に使って授業が行われているかを聞く項目を入れる。【3】

(基準7)「学生支援等」

- ・【課題】修了時に身に付けた学力や資質・能力について、専攻科課程修了生による達成度評価では、一部低く表れている。

【変更・改善】エンジニアデザイン教育の充実を行い、本科4、5年次から継続する英語教育の改革を実施することとした。【3】

- ・【課題】男子寮の学生による評価が低い。

【変更・改善】寄宿舍地区改修整備計画に基づき、高専機構に男子寮のエアコン整備を含む施設整備の予算要求を行うとともに、本校経費によるエアコン整備を進めることとした。【3】

(基準8)「施設・設備」

- ・【課題】バリアフリー化にはなお改善の余地がある。

【変更・改善】平成25年度後半よりバリアフリー化を念頭においた本校のマスタープランを検討し始めた。【5】

- ・【課題】施設・設備のバリアフリー化については、年度計画を立て取組みを進めているものの、進捗状況には改善が必要である。

【変更・改善】平成25年度中にバリアフリー化工事を行い、大幅に改善された。しかしながら、まだ完全ではないため、改善を継続していく。【5】

(基準9)「教育の質の向上及び改善のためのシステム」

- ・【課題】【基準9】に関して、教育の状況に関する自己点検・評価報告書が継続的に作成・公表されているが、点検・評価結果が十分に記述されていない。

【変更・改善】全校教学マネジメントのもとで自己評価体制を整え、本校の中期目標に基づいた評価基準を定めて、自己点検・評価を実施して行きます。【4】

- ・【課題】教育の状況に関する効果的な自己点検・評価の実施に関しては、学校として策定した評価項目・評価基準の設定について、改善の余地がある。
- 【変更・改善】学校として策定する評価方法・評価基準は将来計画員会（自己点検・評価検討ワーキンググループ）で諮られるが、より明確に基準を明示していく予定である。【3】
- ・【課題】教育の状況に関する自己点検・評価が、学校として策定した基準に基づいて実施された年度もあるものの、複数年度において内容が報告形式にとどまっており、教育の状況に関する自己点検・評価が適切に行われているとは言えない。
- 【変更・改善】平成 25 年度後期末に、本校の評価基準を定めた。以後、この評価基準に基づいて、自己点検・評価を実施する予定である。【5】
- ・【課題】平成 18 年度実施の高等専門学校機関別認証評価において、「準学士課程の学生が行う学習達成度評価等について、準学士課程の在学時に身に付ける学力や資質・能力等の直接の学習達成度を評価する内容となっていない。」との改善を要する点が挙げられていることに対して、特段の改善方策が講じられていないなど、各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結びつけられるような組織としてのシステムが十分に機能しているとは言えない。
- 【変更・改善】平成 18 年度の時点では、本科と専攻科の学習・教育目標を共通にしており、本科の達成度評価を、専攻科と共通の学習・教育目標により行っていた。この点について平成 18 年度の機関別認証評価においてご指摘を受け、早急に本科の学習・教育目標を制定し、この学習・教育目標に基づいて達成度評価を実施してきた。したがって、この課題は十分達成されている。【1】
- ・【課題】学校の構成員及び学外関係者の意見聴取が行われているものの、それらの結果をもとに教育の状況に関する学校として策定した基準に基づく自己点検・評価が十分に行われていることが明確でない。
- 【変更・改善】外部評価のフィードバック体制を確立する予定である。【3】
- ・【課題】中期目標・中期計画に対する年度計画の実施状況をまとめた中で教育の状況に関する自己点検・評価がなされているものの、評価項目・評価基準の設定には不十分な点があり、学校の構成員及び学外関係者から聴取した意見については十分には反映されていない。また、評価内容の記載も十分とは言えない。【4】
- 【変更・改善】外部評価時に充実した自己点検書を作成する。評価項目は中期計画に合わせて本校独自に設定する。自己点検書を毎年度末、各主事が責任を持って作成し、校長及び教育システム点検・改善委員会に提出する。内容は本校WEBにアップする。また、5 年に一度の外部評価時には、過去 5 年間分の資料をまとめる形で自己評価する。【4】

（基準 11）「管理運営」

- ・【課題】【基準 11】に関して、全校的な自己評価体制を整えPDCAサイクルが確実に回るよう改善を試みてはいるものの、十分機能しているとは言えない。
- 【変更・改善】全校的な自己点検評価委員会をより活性化し、シラバスやカリキュラムは全校の教

学マネジメントのもとで管理し、PDCAサイクルを実施するよう改善します。【4】

- ・【課題】自己点検・評価書が継続的に作成・公表されているものの、複数年度において内容が報告形式にとどまっており、また、管理運営に関わる内容を含んでいない年度も見られることから、学校の活動の総合的な状況について自己点検・評価が適切に行われているとは言えない。

【変更・改善】平成25年度後期末に、本校の評価基準を策定した。さらに、自己点検評価の実施要領を策定した。以後、この評価基準と自己点検評価実施要領に基づいて、適切に自己点検評価を実施して行く予定である。【5】

- ・【課題】学校の活動の総合的な状況に対する効果的な自己点検・評価の実施について、評価項目は定められているものの、評価基準は不明瞭である。また、公表されている自己点検・評価報告書には、点検・評価の評価内容が十分には記述されていない。

【変更・改善】自己点検・評価方法について改善を検討することとしている。【5】

- ・【課題】自己点検・評価に関して、平成18年度までは自己点検・評価報告書としてまとめられていたが、その後は、中期計画の実施状況を「中期計画 評価表」として作成し、活動の実績に対する自己点検・評価としているが、学校の活動の総合的な状況に対する効果的な自己点検・評価の実施という点では、評価項目・評価基準の設定には不十分な点がある。

【変更・改善】来年度以降、改善を図っていく予定である。【4】

- ・【課題】学校の活動の総合的な状況に対する評価について、評価方法や評価基準が不明瞭であり、評価結果の公表の仕方についても改善の余地がある。

【変更・改善】学校独自の自己点検(総合的な活動)評価書を作成し、公表する予定である。【3】

- ・【課題】学校の活動の総合的な状況に関する効果的な自己点検・評価の実施に関して、評価項目、評価基準の設定には、一部未整備の点が見られる。

【変更・改善】自己点検自己評価委員会の活動を見直し、必要な整備を行った。【5】

- ・【課題】自己点検・評価に関して、中期目標・中期計画に対する年度計画の実施状況をまとめ、自己点検・評価としているが、学校の活動の総合的な状況に対する効果的な自己点検・評価の実施については、評価項目・評価基準の設定には不十分な点があり、自己点検・評価報告書として公表されているものには、評価内容が十分には記載されていない。

【変更・改善】外部評価時に充実した自己点検書を作成する。評価項目は中期計画に合わせて本校独自に設定する。自己点検書を毎年度末、各主事が責任を持って作成し、校長及び教育システム点検・改善委員会に提出する。内容は本校WEBにアップする。また、5年に一度の外部評価時には、過去5年間分の資料をまとめる形で自己評価する。【4】

(その他)

- ・【課題】(基準3、6)各種アンケートの見なおしが必要。

【変更・改善】アンケートの目的に即した設問にする。【5】

- ・【課題】【基準9、11】自己点検が不十分である。

【変更・改善】平成26年度から各種委員会を刷新し、自己点検システム構築を進めている。【5】

8. 評価の実施体制について

○ 評価の実施体制について、対象校が行っている方策・工夫等、その方策・工夫等についてよかった点、悪かった点等、その他感想について

- ・ 認証評価を7年毎に受審することを踏まえ、認証評価対応委員会（時限設置）委員の年齢構成を考慮した。本校での経験年数が比較的短い若手教員にとっては、大変な仕事だったと思うが、学校全体のことを理解する上で貴重な経験になったと思われる。
- ・ 外部評価に対応する委員会として点検・評価委員会を常設し、今回の認証評価受審に係わる作業全般（自己評価書作成から訪問調査の準備まで）も点検・評価委員会で担当した。各委員の負担は多くなるが、意思疎通などが迅速に行えるため効率的に作業を進めることができた。
- ・ 前回の認証評価受審時に対応した教員の中から委員長と主査を選出したことによって、前回の経験を生かして作業することができた。
- ・ これまでは、外部評価を受審するための対策委員会を時限付きで設置していたが、今後、継続的に外部評価を受審し、結果を学校運営にフィードバックすることを念頭に置いて、平成24年度からは自己点検・評価委員会のもとに、認証評価専門委員会・JABEE専門委員会・専攻科認定審査専門委員会を常設した。

このことにより、目先の受審の対策に追われるだけの外部評価ではなく、学校の教育活動の改善に役立てるための外部評価という意識が強くなったと考えている。

- ・ 認証評価に関して、自己評価書作成や成績評価資料整備などの9つの部会を立ち上げた。
しかし、教育改革が道半ばのため、十分には機能しなかった。
- ・ 今回の認証評価に対応するためにWGを設置したが、人数が多すぎて表現等での不整合が発生してしまった。
- ・ 各学科から選抜された「教育システム点検・改善委員会」は、学科間連携を必要とする事項、学校全体に改善を要する事項などについて毎年検討を行い、「自己点検・評価委員会」へ提案および報告を行っている。このシステムにより、具体的な教育改善等が図られている。

9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

① 教育研究活動等の質の保証に関する効果・影響について

- ・ 授業アンケートや授業参観などにより授業改善が行われ、また教員の研究成果が教育還元されるなど質の向上が図られた。
- ・ 全教科について学生による授業評価アンケートを実施している。その結果に基づいて、教員は事後シラバスを作成することになっており、授業の質を保つのに役立っている。
- ・ 今回の認証評価のご指摘により、試験問題の適正な作成を各教員の共通認識として浸透させることができ、教育の質向上に繋がったと考えている。また、答案の保管の徹底を全教員及び非常勤教

員に指示することができ、これにより教員の意識が向上したと考える。さらに、学校評価アンケートの方法を見直し、学生の達成度や教育の成果をよりの確に把握するよう実施要領を定めることができた。以上の内容は、機関別認証評価のご指摘が、言わば、トリガとして機能した結果であると考えており、教育の質保証に繋がると確信している。

- ・ 認証評価受審を通じて、自己点検・評価に関する理解が深まり、教員評価等を実施するなどし、教育研究活動等の質の保証に寄与している。
 - ・ 「エビデンスを保存しておく。」という意識が浸透した。
 - ・ 入学試験制度について、複数校志望入試制度を実施できた。
 - ・ 前回の認証評価を受審し以下の4項目について改善点を指摘されている。
 - 1 準学士課程の学生が卒業時に身に付けておくべき具体的な学力や資質・能力について、学生便覧等の刊行物などには明記されておらず、十分に周知がなされているとは言えない。
 - 2 平成16年度から、必要とされる一般科目を担当する専任教員を1人ないし2人満たしていなかった。訪問調査時には改善が図られていたが、今後は高等専門学校設置基準を遵守し、教員の適切な配置に十分留意していく必要がある。
 - 3 学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力等に関して、学生による学習達成度の評価が直接的には行われていない。
 - 4 授業評価アンケートが平成18年度の前期より実施されているが、教員の改善活動状況を学校として十分には把握していない。
- 以上の項目に対する改善を行い、本校における教育研究活動等の質の保証を図っている。
- ・ 定期的なアンケートを実施することにより、教育効果の質の評価を行うことができ、教育の質の改善にも繋がっている。

② 教育研究活動等の改善の促進に関する効果・影響について

- ・ 授業の内容と進め方が明確になり、地域連携による研究活動が活発になった。
- ・ 学科と学系の懇談会などの実施によって、教員間の意見と情報交換が行われ、授業内容の改善に役立った。
- ・ 前回の機関別認証評価では、教育研究活動に関する自己点検・評価が継続的になされておらず、評価結果をフィードバックするPCDAサイクルの機能も十分でないとの指摘を受けました。これを受けて、今回の受審までには、継続的に自己点検・評価を行い、その結果を教育研究活動にフィードバックする仕組みを整え、実際に機能するよう学校の体制を改めてきました。
- ・ 基準1では、学校構成員が本校の目的等をどの程度周知しているかを把握するアンケートを実施することにより、その周知状況を把握することができた。今後も継続して実施したい。基準5では、本科科目の流れ図を作成することにより、科目の流れが明確になった。また、モデルコアカリキュラムを基本にしたカリキュラムマップを作成することにより、教育内容ごとの教育の積み上げ状況が明確となった。これは学生の学習に大きく寄与できていると考えている。また、試験問題を互いにチェックし合うシステムを構築し、平成25年度末から実施しており、教育の質向上に繋がると確信し

ている。基準6では、過年度卒業生や社会に対する学校評価アンケートを3年毎に実施してきたが、今回のご指摘に基づいて、学校評価アンケート実施要領を策定することができた。この実施要領に基づいて、的確に達成度や教育の成果を評価して行きたい。基準11においては、本校独自の評価基準と自己点検評価の実施要領を定めることができ、今後はこの基準及び実施要領に基づいて的確な自己点検評価を実施して行きたい。

- ・ 自己評価書の作成を通じ、成績評価資料の保存方法等の基準などがさらに明確に定まり、教育研究活動等の改善の促進に一定の効果・影響があった。
 - ・ 評価委員から口頭で指摘されたホームページの改善を図ることができた。
 - ・ 前回の認証評価を受審し以下の4項目について改善点を指摘されている。
 - 1 準学士課程の学生が卒業時に身に付けておくべき具体的な学力や資質・能力について、学生便覧等の刊行物などには明記されておらず、十分に周知がなされているとは言えない。
 - 2 平成16年度から、必要とされる一般科目を担当する専任教員を1人ないし2人満たしていなかった。訪問調査時には改善が図られていたが、今後は高等専門学校設置基準を遵守し、教員の適切な配置に十分留意していく必要がある。
 - 3 学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力等に関して、学生による学習達成度の評価が直接的には行われていない。
 - 4 授業評価アンケートが平成18年度の前期より実施されているが、教員の改善活動状況を学校として十分には把握していない。
- 以上の項目に対する改善を行い、本校における教育研究活動等の改善を行った。
- ・ 指摘事項を教育システムに反映させることにより、教育システムの改善を図っている。

③ 教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に関する効果・影響について

- ・ 学校の教育研究活動の状況が外部に公表され、外部からの意見や要望などの評価が行なわれ、学外にまた外部意見を参考にすることにより改善につながった。
- ・ 大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を受け、基準を満たしているとの評価をいただいた。これは、教育の質保証がなされていることが認められたことを意味し、さらに社会的にもそのように認知されることから、社会に対するその影響力と効果は極めて大きい。学校紹介のパンフレットなどに、認定を受けたことを掲載することにより、広報活動に大きく寄与できていると考えている。
- ・ 地元との連携強化に役立てることができた。

10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

○ 質問の項目以外に良くなっていると思う事項について

- ・ 訪問調査の日程が効率的になり、短縮されたことは学校にとっても労力の軽減となった。
- ・ 訪問調査の日程が2泊3日から1泊2日に短縮されたことにより、スケジュールはタイトになるが、負担の軽減という点からは良いと思う。

- ・ 前回に比較すると、基準ごとの観点の留意点が明確化されており、自己評価書の作成が容易となっている。また、訪問調査時の調査項目も重点化が図られており、準備等に要する対応が容易となった。

○ 質問の項目以外に悪くなっていると思う事項について

- ・ 各基準ごとの観点に対する記述事項を証明するための必要資料が多岐にわたっている。また、重複回答とならざるを得ない観点もわずかながら存在する。この点についての、御検討を御願いたい。

また、高等専門学校は、大学とは異なる高等教育機関であり、高等専門学校の特徴を踏まえた基準および観点のあり方についても、御検討を御願いたい。

11. その他

○ 実際に評価を受けて期待どおりであったかについて

- ・ 自己評価書を作成する中で、本校の弱い部分・足りない部分が見えてきた。評価結果にもそのことが表れており、予想された内容であったと思う。また、これまで意識していなかったことが、優れた点として評価して頂いたことも多く、より良い活動になるように継続していきたい。
- ・ 本校の行なっている教育研究等の活動が全ての基準を満たしており、また、多くの「優れた点」をピックアップしていただき、期待通りの結果であった。

改善を要すると指摘された点についても、真摯に受け止めて問題の改善に取り組むきっかけしたいと思います。

- ・ 機関別認証評価の受審に関しては、教育の質保証に関する評価だけでなく、本校が問題点として考えている事項について明確かつ適切に指摘してくれることを期待していた。その点において、今回の受審は期待通りであったと思われる。
- ・ 期待どおりであった。
- ・ 改善を要する点は、予想どおりのご指摘であり、さらなる改善を推進すべき姿勢が学内に醸成されつつある。
- ・ 前回の認証評価よりシビアな面があったが、評価委員の取りまとめは適切であった。
- ・ ほぼ期待どおりであった。
- ・ 高等専門学校に求められる自己点検制度、教育システム、研究活動、地域連携などについて、改めて本校の活動全体を再点検する良い機会になった。また、様々な「今後改善を要する点」として指摘を受け、これらの改善により、今後の発展に繋がるものと考えられる。

○ その他、当機構の行う評価についての意見等

- ・ 当認証評価は学校にとって必要不可欠であるが、これら多くの事項を常に管理していくことは難しいと思われる。特に工業は学科数に関わらず同じ組織で運営されているので、3学科の小規模校

ほど一人当たりの作業量は多くなる。学校の規模に応じた評価法を導入していただきたい。

- ・ 国立高等専門学校機構本部から入手できる資料等は、機構間でやり取りしていただきたい。
- ・ 高等専門学校の高等教育機関としての規模を御勘案頂き、観点等の項目の簡素化について御検討願いたい。

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
（高等専門学校）

1. 評価基準及び観点について

⑤ 評価しにくい評価基準又は観点について

（基準1）「高等専門学校の目的」

- ・ <1-1-①>
 - ・ 目的の設定における学校の個性や特色が明確に活かされているとは言えない。
 - ・ 目的における人間性豊かな技術者の育成等の点において本質的な内容の検討、方法についての議論が欠けている。
 - ・ 実践的技術者の定義が明確ではない。
 - ・ 教育方針、養成すべき人材像、教育目標と「学習・教育目標」が混在し、必ずしも明確になっていない。

（基準4）「学生の受入」

- ・ <4-1-①>アドミッション・ポリシーとして「求める学生像」に加え「入学者選抜の基本方針」が明文化されているかどうかについて

第2部会においては、アドミッション・ポリシーとして「入学者選抜の基本方針」が明文化されていることが必須であるという考えに基づいて訪問調査を実施し、対象校にその旨説明してきました。

しかしながら、評価部会第2部会（第3回）において、こうした第2部会の方針が第1部会とかなり異なっていることが判明し、（対象校への）指摘事項の記載方法や次年度以降の説明の仕方に再考が必要であると感じました。

- ・ <4-2-②>

推薦選抜に比し、学力選抜者に関して入学者受入方針に沿った評価が行われているとは思われな

い。
- ・ 基準4のアドミッション・ポリシー

アドミッションポリシーに関しては、対象校にアドミッション・ポリシーの内容がうまく伝わっていない面もあり、特に4-4-②の検証方法に関しては、模範となる検証例がないため評価しにくいと感じました。
- ・ 基準4-1-①、基準4-2-①のアドミッション・ポリシー関係。

（基準5）「教育内容及び方法」

- ・ 5-2-③、5-6-③の項目で、「創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。」

（基準10）「財務」

- ・ 10-3-②について会計監査が適正に行われているかを評価するにあたって根拠となる資料・データ等の提示をどこまで対象校に求めるか、はっきり予告したほうが良いと思う。

また、会計処理が適正に行われているかを学内で確認するために学内内部監査の実施報告を義務付ける方向で基準を見直す必要があると考える。

- ・ 10-2-③ 「適切な資源配分」。
- 10-3-② 会計監査等が「適正」に行われているか。
- ・ 会計監査の指摘に対し、その改善を指摘するための基準が明確でなかったこと。

⑥ 内容が重複する評価基準又は観点について

(その他)

- ・ 完全に重複するという意味ではないが、内容の観点により異なる基準に区分けされているということであり、やむを得ないのではないかとと思われる。結果として、同様な記述や判断が発生しうるように思う。
- ・ (回答校の記述には項目間の違いを十分に把握せず同様の内容を重複回答していると思われる箇所(項目9と11など)がありましたが、基準は組織立てられており重複している点はないと思いました。)

○ 評価基準及び観点についての意見、感想等

- ・ 評価基準に沿うあまり、画一的・均質化の方向に傾きかねない難点もあるように思いました。
「ご当地教育」の大切さを損なわない、むしろそちらを称える領域がもっと多くを占めてもよいかと思いました。
- ・ 今回の機関別認証評価において大きな議論の対象となった「会計検査院からの不適切な会計処理に対する指摘」のように、現在の評価基準及び観点ではカバーしきれていない事項を適切に評価できるようにするため、以下のことを検討する必要がある。

○ 基準11の中の観点として、コンプライアンス(法令等遵守)に関する事項を追加する。

- ・ 目的と教育理念はさておき、教育方針と養成すべき人材像、学習・教育目標、各部署の教育目標が総花的に設定されており、各項目と全体の主旨とが明確に表現されているとは言い難い。例えば、教育方針と養成すべき人材像は文言数には差はあるものの大要は同じ内容に読み取れる。また、学習・教育目標と準学士課程の教育目標の位置付け、専攻科の教育目標と教育方針の記述内容等が判然としない。

これらのことは教育・研究を遂行する上で基本となる重要な観点であるが、現状の一般的観点から必要と思われる項目を表現してはあるものの、本当に必要な要件を、集約した形で理解して取り組む必要があるのではないかと感じられる。

- ・ 評価を確定する段階で、「満たしていない」とは書けない観点があった。そのような場合には、観点そのものの表現を変えた方がよい。
- ・ 訪問調査前の対象校からの回答書において、一つの項目においてのみ、その回答が不十分な場合

は訪問調査でその項目のみを確認すれば作業は終了します。しかし、観点の中には、例えば、教育目標のように、いくつもの項目に関連する項目がある場合があります。一つの回答がその他の回答に影響を与えるような場合は、その確認項目数が多いと、訪問調査ではそれらを確認することが容易ではありません。稀なケースとは思いますが、良い対処法はないのでしょうか。

- ・ 評価基準及び観点は完成度の高い内容を持つと思いました。（観点ではございませんが、たとえば男女共同参画や、学内広報誌の活用（学生の学習研究の支援や学生生活の活性化）は、各高専が工夫して取り組んでいるようですので、観点記述のヒントとして役立ちユニークな実践が引き出せるかもしれないと思いました。）
- ・ 今回、基準4 関連についてこれまでとは違う方針で臨みましたが、いろいろと混乱があったように思います。第1部会と第2部会での対応にも差がありました。また事前に対象校への説明した内容と方針が違ったこともあって、訪問調査時に対象校にやや負荷をかけてしまったかもしれません。
- ・ 多くの高専が掲げているアドミッション・ポリシーと入学試験（特に学力試験）を結びつけることは困難な気がする。学力試験はその名の通り、基本的に学力しかチェックしていないと思われるので。

2. 評価の方法及び内容・結果について

（1）自己評価書について

① 対象校の自己評価書の理解しにくかった点について

- ・ 各校が独自の自己評価方法を採用して実施しており、必ずしも同一の評価がしにくい。
- ・ 対象校が自己評価書の書き方について理解していない箇所が多くあり、回答になっていない場合があった。
- ・ 根拠資料のみで、自己評価の無いものが見られた。
- ・ 時間をかけてご準備いただいたことが伝わってきましたが、項目による記述量のばらつき、項目の趣旨に沿わない資料の提示、記述内容の不一致などが見られました。また、学外者が他の資料を参照せずに読んでもわかりやすい全体像の説明、用語の選択にさらにご配慮いただければより有用な資料になると思いました。
- ・ 資料を添付するだけで、分析説明や判断の理由が書かれていない記述がもつとも困りました。
- ・ 必ずしも、観点が十分理解されていないで記入されている場合があった。

③ どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかについて

- ・ 基準10 について、根拠となる資料・データ等の例を可能な限り明確に提示する必要がある。過去5年間のデータを求めているが、応じていない学校がかなりみられる。
- ・ 根拠資料となる規程等が部分抜粋されていることが多く、しかも確認に必要となる部分が欠落している場合があった。
- ・ 評価観点に必要な資料に関する認識が足りないケースが散見される。

十分な事前説明が必要であると思われる。

○ 自己評価書の様式についての意見、感想等

- ・ 文章だけでは何が求められているのかの意図をくみ取りにくい場合が多く、的確に書かれている場合は、審査に熟知した人がいるかないかの違いによるように思えました。
かつて調査員がいた場合、学校にどれだけフィードバックされたのか、フィードバックしたつもりでも学校の中でどれだけ浸透していったのか、むしろそのことが如実に表れているように思えました。
- ・ 様式については特に問題ないと考えています。
- ・ 各学科・各専攻の基本情報については、原則として全て添付していただいた方がよい。
- ・ 基準、観点で聞かれていることを十分に理解した上で適切に書いて欲しかった。このためには機構側で知りたいことが何であるかをもう少し分かり易く事前に伝える必要があるのではないかと思います。
- ・ 事前によく伝えていると思うのですが、資料を添付するだけで、分析説明や判断の理由が書かれていない自己評価書にならないような対応が必要です。

(2) 書面調査について

② 書面調査を行うために必要であったと思われる参考となる情報（客観的データ等）について

- ・ 公認会計士監査、高専機構監事監査および内部監査等が実施されているにもかかわらず、報告データが示されていない例があった。
- ・ 全国の高専でどのような取り組みがなされているかを一覧できる資料があれば、対象校の取り組みが優れているのか劣っているのかあるいは普通なのかを判断しやすかった。できれば事業の種類別に分類してあるものがあれば良い。
- ・ （訪問調査で確認できましたので該当しないかもしれませんが、自己点検・評価書が可能な範囲で事前に拝見できればなおありがたいと感じました。）

○ 書面調査についての意見、感想等

- ・ 締め切りまでの時間を考えると、一人で担当するには量が多かった。
仕方のないこととも思えるが、もう少し余裕のある日程がほしいと感じた。
- ・ 各基準毎（場合によっては各観点毎）の基本データのチェックリストのようながあると、対象校にとっても評価者側にとっても便利だと思います。
- ・ 書面調査につきましては、担当校の自己評価書がわかりやすかったので、作成しやすかったと思います。
- ・ 書面調査後、「・・・補足説明願いたい。」や「・・・補足資料を提示願いたい。」というシンプルな表現で対象校に確認や追加資料を求めますが、対象校に審査側の意図が十分に伝わらない気が致します。場合によっては、「・・・に関しては記載されていないので、・・・に関して補足説明願いたい。」や「・・・に関する資料ではなく、・・・に関する補足資料を提示願いたい。」

などの様に、理由や具体性を持って対象校に確認や追加資料を求めるのは如何でしょうか。あえてシンプルな表現で回答を求められているとは思いますが、審査側の意図が対象校に伝わないと最初に提出された点検書と説明が同じであったり、追加資料も不十分なまま訪問調査で確認をとることになってしまいます。

- ・ お送りしました案をいつもすぐにご検討いただき、また有益なご助言をいただきありがとうございます。関係の先生方、事務の皆様に心より感謝申し上げます。
- ・ すごく細かな点まで指摘される主査がいるなど、主査による調査のばらつきがあったように感じました。評価者研修での説明だけでレベルをそろえることは困難かとも思いますが、指摘のレベルについて評価者に伝えた方がよいように思います（研修の項目にも関係します）。

（３）訪問調査について

② 訪問調査で確認できなかった点について

- ・ 確認事項の内容が対象校に伝わっていないのではと思うことがありました。こちらの意図をもっと明確にして、もう少し丁寧な伝え方をしたほうがよいようにも思います。

⑤ 訪問調査の実施内容に係る時間配分の適切でなかった点について

- ・ 一部の面談に対して、時間設定が遅い時間帯となっており、対象校の中には「勤務時間外」にまでスケジュールが及んでいることに不満を持つ者もいるという。
スケジュール設定について、工夫が必要かもしれない。

例えば、現在は訪問調査を１日半で実施しているが、２日目の午後をも活用し、面談の一部を２日目の午前の前半にも実施し（これにより、１日目の遅い時間帯の面談を避ける）、訪問調査終了時における判断結果を対象校に伝える時間帯を２日目の午後とすることも検討して良いのではないかな？

- ・ 対象校（責任者）と解釈の違いが大きい場合は、その説明に多くの時間を要したと思います。

○ 訪問調査についての意見、感想等

- ・ 百聞は一見に如かずで、この調査が最も対象校の実態を知るうえで参考になりました。廊下を歩く学生の姿や、直接審査に関わらない教員の姿を、拝見する時間をもっとほしかったほどです。

訪問調査は、あくまでも評価基準や観点の確認ですが、書かれていないところに優れた取り組みを発見できるのも、実際に見て、話してみなければわからないことでした。

そのためとても有意義な訪問調査の体験でした。

- ・ 特になし。訪問調査は、認証評価に必要なことだと思っています。
- ・ 学生・卒業生との面談において、多くの本音が聞けたことは訪問調査の大きな収穫でした。
- ・ 機構側の要望等に対して、十分な対応をいただけたと思います。
- ・ もう少し時間的余裕があると良かった。慣れていないと時間配分を間違え、やり残しが生じる。丸二日間かけてやってもよいのではないかな。

- ・ 訪問調査第一日目の 9:00～のミーティングの時間が短いため、専門委員と委員の先生の間での確認作業が十分にできない気が致します。訪問調査では時間的余裕がありませんので、訪問調査の数日前までに、専門委員から委員の先生に確認事項を連絡しておく、ミーティングがスムーズに進むのではないかと思います。そのためにも、訪問調査前の対象校からの回答期限をあと 1 週間、せめてあと 2、3 日でも早めて頂くと良いのではと感じました。1 週間では回答書の内容を確認する時間も短いと思います。
- ・ 日程の都合があるかと思いますが、個人的には、現地資料を確認する前または後に、対象校に確認すべき内容等を検討する時間をより多くいただければありがたいと思いました。
- ・ 今回から？、初日に午前中に校長や評価責任者に話をする時間を取るようにしましたが、これは訪問調査をスムーズに進めるうえで効果が大きかったように思います。

（４）評価結果について

○ 評価結果についての意見、感想等

- ・ どのような基準で評価を行うかべきかが事前にある程度マニュアル化されていれば評価の公平性が保てると思いますが、現在の評価手法では担当者の主観による評価になってしまう面もあり、評価の公平性がどのように保たれるのか、やや不明な点が感じられる。

評価の基準を事前に決めていない部分があり、評価自身がやや「後出しジャンケン」的な評価になってしまっている部分があるように感じられる。評価の基準を事前に決めるのは難しい面もあるのはよく理解できるが、評価を受ける高等専門学校にとっては、どのような観点でどのような成果を期待しているのかが分かれば、評価を受ける前に改善のための準備期間を設けることができる。現在の方式だと、現地訪問で問題点を指摘されてから改善の作業に入るため、問題点の改善に時間がかかるように感じられる。

- ・ 少しでも対象校の参考になり、積極的な変革の手掛かりになればと思います。
- ・ 分量は該当校、機構、双方ともに多いのではないだろうか。担当者のご苦勞が心配されます。もう少し分量が減るように改善されることを望みます。
- ・ 基準 1 から基準 11 の評価に関しては適切かとは思いますが、各基準の細分項目について重みが異なる事、そのことを考慮した評価も必要ではないかと感じました。

例えば、基準 1 では目的の公表よりも、目的の内容を深く吟味すべきであると思われます。基準 2 では、教育組織は当然満たされているべきものであり、複雑な教育課程を有する高専では運営体制、教育活動の具体的な連携等について更に調査する必要を感じます。

- ・ 本文と結論が食い違う印象をもつ箇所があった。本文中に不備な点が指摘してあっても、最終結果は適切だと判断するというたぐいである。そうならないためには、観点の表現を工夫する必要があるように思う。
- ・ 各調査の内容をふまえてわかりやすくおまとめいただき、ありがとうございました。
- ・ 訪問調査後に対象校から出された資料が最終評価に反映されない部分もあったように思う。

3. 研修について

○ 研修についての意見、感想等

- ・ 初めての経験で分からないことばかりでしたが、丁寧な解説をいただいて、新しい知見を得ることができました。
大変お世話になりました。
- ・ 資料5を活用した説明は、具体的で理解しやすかったが、時間が少し長く感じた。
- ・ 研修時の資料は、評価作業、とりわけ書面調査1次原案の作成にとっても役立ちました。
- ・ 初めはわからない点が多く、研修のときは十分に理解できていないことも多かったが、書面調査をする段階から配付資料等を参考に徐々に理解できるようになってきました。
- ・ あくまでも私個人の注意不足かと思いますが、書面調査票の作成にあたり、「～適切なものとなっていると判断する。」と「～適切なものとなっていると思われるが、訪問調査後に最終的に判断する。」という2つのパターンで記述するというを最初把握しておりませんでした。
色々な意味合いに応じて記述すべきかとは思いましたが、審査する側からすると統一した方が良いかと感じた次第でした。
- ・ 研修の内容、資料が膨大であり、すべてはとても理解できなかった。後から見直してみると、役に立つものが多くあることに気がついた。もう少し時間を使って、丁寧に説明していただき、頭の中に定着させる工夫をすることが望ましい。
- ・ 第1回の研修の際に示された資料5と資料8の内容に関して、多少相違点があるのではと感じました。それから、初めて審査の仕事を携わる者にとっては、具体的な作業内容に関して、あらかじめ、もう少し説明を頂きたいと感じました。
- ・ 研修はたいへん役に立ちました。心より御礼申し上げます。評価の意義が理解でき、また、過去の蓄積に基づく評価上の留意点は調査時に参考になりました。

4. 評価の作業量、スケジュール等について

(1) 評価に費やした作業量について

○ 評価に費やした作業量についての意見、感想等

(具体的にどのような作業において作業量が大きかったかについて)

- ・ 自己評価書の書面調査において、一つの高等専門学校に対する評価原案の作成作業があり、百項目を超える項目それぞれに対する評価原案を作成する作業の依頼があった。この作業には延べ20時間以上の時間を要した。また、作業期間も非常に短期間であった。このような作業が7月に生じることを事前に説明し、予め了解を得るように改善すべきである。また、この作業に対する対価がどうなっているかも事前に説明が必要である。
- ・ 短い期間で評価原案を作成するのは非常に大変な作業であると思います。
- ・ 書面調査1次原案を作成するために多くの時間を費やした。対策のひとつとして、作業手順を基

準1から始めるのではなく、文書作成に慣れる目的で選択的評価事項A、Bから開始するとトータルの作業時間短縮に効果的かと思った。

- ・ 認証評価作業が初めてということもあり、書面調査1次原案の作成が大変でした。
- ・ 自己評価書の書面調査の作業量が不慣れなこともあり、とても大きく感じました。
- ・ まず、自己の要領の悪さが第一の問題。

次に、訪問調査で思わず時間を取ってしまったのは、担当の科目の各年の試験問題の類似が見られ、その程度を把握するのに詳細に調査する必要があったことである。

また、調査書については、その力点の把握不足は否めないが、満遍なく通読することに専念して自分が重要と感じた点のチェックと質問事項の設定をしたところである。しかしながら、その回答も含め、本質的な点において承伏できないところは少なからずあり、結果としては消化不良であった。

- ・ 初めての作業であったため、記述内容をシラバスやホームページなどで確認する作業に時間がかかりました。

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

○ 機構が設定した作業期間についての意見、感想等

- ・ 自己評価書の書面調査において、一つの高等専門学校に対する評価原案の作成作業があり、百項目を超える項目それぞれに対する評価原案を作成する作業には延べ20時間以上の時間を要した。また、作業期間も非常に短期間であった。延べ20時間以上を超える事務的な作業が発生することは事前に説明すべきである。
- ・ 訪問調査が、2週連続同じ曜日だったので、自習を作らないための時間割調整に苦慮しました。
- ・ 作業にかかる時間が少ないと感じています。
- ・ 書面調査の作業期間がもう少しほしかった。
- ・ ①については、約3週間の作業期間がありましたが、この間に行事があった関係で、とても慌ただしく感じました。
- ・ 自己評価書の書面調査の作業量が多いため、もう少し時間的に余裕があってもいいように思いました。
- ・ 自己評価書の書面審査に関して、2校担当したうちの副査ではない学校に対する作業期間が短い印象を持った。そのため、その後の忙しさに紛れて、十分に準備することなく訪問調査に参加することになった。
- ・ 夏季は学校行事が多く、最初の書面調査期間はタイトであった。

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

○ 評価に費やした労力についての意見、感想等

- ・ 誠実に一生懸命に任務を全うしたと思っています。そのことは対象校にも伝わったと思いますが、それを生かすのは対象校の問題です。持続的・積極的な活用をしていただくことを望みます。

- ・ 認証評価作業が今回初めてということもあり、時間的にも、精神的にもかなりきつかったというのが正直な気持ちです。
- ・ 評価作業に費やした労力は大きかったですが、私としてもいろいろ勉強になり、また訪問調査後に対象校から認証評価の目的等をご理解いただけたように感じられたことで労力に見合う達成感を得ました。
- ・ 教育研究活動等の質の保証に役立たないというわけではないが、対象校の対応において少なからず義務的な側面があることを感じるの否めない。

教育研究活動等の改善の促進に対し有効に作用するとは思われるが、本質的な教育・研究の追求という意味では今少し考慮すべき事があるように感じる。

上記観点は別にして、社会的責務として教育研究活動等について社会から理解と支持を得るといふ目的には沿うものと考えられる。

- ・ 大変手間はかかったが、対象校のお役に立てたのではないと思う。また、対象校の努力に対し、敬意を表したい。

（４）評価作業にかかった時間数について

○ 評価作業にかかった時間数についての意見、感想等

- ・ 全体的に評価作業や訪問調査に関する資料に目を通すのに相当な時間を要するにもかかわらず、これらの作業について、正當に作業時間として評価されていない。
 - ・ 評価結果原案は機構側で作成していただけたので、確認作業だけであり楽でした。助かりました。
 - ・ 書面調査１次原案の作成にかなりの時間を要しました。
 - ・ 時間数につきましては正確ではありません。
- 真剣に取り組んだことは確かで、労力はそれなりに使ったかと思います。
- ・ 正直に言って、正確な作業時間はわからない。どこで時間を費やしたかを振り返ってみると、慣れないために判断基準が確立されておらず、どう判断すべきか迷って時間がかかったのではないと思う。特に自己評価書の不備に対して、観点にきちっと答えているかどうか、何が不足しているか、どこまで資料提出を求めるべきかは、判断がなかなか難しかった。また他の高専の状況を知らないため、取り組みが優れているのかあるいは劣っているのかを判断するのも難しかった。そういったことで迷って時間を費やした部分がかなりあると思う。
 - ・ 記録がないので、まったくのおよその時間です。

５．評価部会等の運営について

○ 評価部会等の運営についての意見、感想等

- ・ 十分に議論が深められ、共通理解ができるまで話し合いが行われました。
資料の整備など事務局も大変な労力を注がれたと思われます。
- ・ 当初前回の認証評価を経験したときよりも委員の数が少ないと感じたが、今回は特定の基準・観点だけでなく全般を担当することができて、得るものが大きかった。その意味で人数や構成は適切

であったと思う。反面、全般を把握しておらず、慣れていないこともあって、戸惑うことが多くあった。

- ・ たいへんお世話になりありがとうございました。いつも万全に準備していただきました。
- ・ 第1部会と第2部会の指摘のレベルをそろえる必要があるようにも思いますが、これは機構の方で調整していただくほかはないかもしれません。

6. 評価全般について

○ 評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についての意見、感想等

- ・ 全体としては、評価に携わせていただいたことには深く感謝申し上げます。この経験は、今後自身の所属組織の運営等に活かすことができるように思われます。主査の先生はじめ、関連する評価委員の先生、事務局の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・ とすれば学内での諸問題への対応に追われがちですが、評価基準及び観点によって、むしろ調査委員である私の方が、進むべき方向を見つめ直すきっかけにできるように思いました。

以前評価を受ける側に立ちましたが、何が本当に必要なものとして見られているのかに確信を持てず、建設的なエネルギーの使い方がしにくいこともありました。

審査の意義は、そもそも学校の質を高めることにあるはずですので、学校に求められているもの、つまり目的地への地図を明らかにすることが重要だと思います。その点で大変貴重であると感じました。

一方で、評価基準に沿うあまり、画一的・均質化の方向に傾きかねない難点もあるように思いました。「ご当地教育」の大切さを損なわない、むしろそちらを称える領域がもっと多くを占めてもよいかと思いました。

- ・ 評価側の立場で関われることは幸せであり、喜びを感じております。
貴重な経験を活かし、所属校の発展にも繋げていきたいと思っています。
- ・ 今回の評価作業を通して、評価の視点について多くのことを学ばせていただいた。今後、自分の所属する学校運営に生かしていきたいと思っています。
- ・ 7年ごとの機関別認証評価は、対象校における教育研究活動等の質の保証および教育研究活動等の改善促進に役立っていると思う。今後さらに認証評価の目的、意義および重要性を認識してもらう意味で基準10、財務および基準11、管理運営については、評価精度を高める必要があるように思う。
- ・ 専門科目以外の教育に関する専門的な知識も少なく、評価を担当できる立場にあるのかについて疑問をもちながら評価を担当させていただきました。今回の評価を通じて教育目標の設定と達成度評価の大切さ等いろいろと勉強させていただきました。今回の評価作業で得た知識を私の所属組織の運営等に活かすようにしたいと考えております。
- ・ 教職員の面談において、今、当校で最も重要であると考えていることを問うたところ、ほぼ全員から、英語教育であるという返答が帰ってきた。現在初等・中等教育を含めて会話を主とした英語

教育の必要性が叫ばれており、今までの受験英語の教育では不十分であることは誰しもが認めるところである。

しかし、教育として最も重要なことであろうか。根拠としては、社会がグローバル化し、異文化の人達とのコミュニケーションが重要であり、そのための言語として英語が必要であるということであろう。

もし、そうであったとしても、日本人としての誇りを有し、国を愛し、人間の尊厳を守り、個人のアイデンティティを確立することがまずは重要ではないだろうか。そのためには国の正しい歴史を学び、幅広い文化に触れ、色々な意見・考え方を咀嚼して、自らの意見を論理的に述べられる力を養成する必要があるのではなかろうか。

また、教育において教員という人間が介在する以上、教員の才覚、特にはその教育に対する情熱の大きさは極めて重大であり、逆に不勉強な、そして反面教師にもなれない熱意の欠けた教員の存在は、誰にとっても不幸であり、損失である。

客観的な基準に基づく評価となると、どうしてもこのような、ある意味で最も重要なところが見落とされる結果となってしまう。そのため、当事者側は、評価のための表面上の繕いに専念してしまうこともままあることとなってしまう。

当事者側に、本当に、教育・研究の改善、質の保証を行う意志があるのか否か、そしてその事に真摯に立ち向かっているのかどうか、結果だけではなく、その過程を重視することも重要ではないかと考える。

- ・ 評価によって改善されることは多くあると思うが、評価する側、評価される側双方にとって負担が大きい。今後は如何に効率的に実施するかを考えて欲しい。そうでないと評価疲れにより高専の教育と研究が破壊される。
- ・ たいへん多くのことを学ばせていただきました。心より感謝申し上げます。今後の自校の教育・研究活動に活かしていきたいと思います。
- ・ 機構の事務方は、ほんとうにたいへんであったと思います。頭が下がります。

7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

① 対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった点について

- ・ 対象校のなかにまだこちらが想定しているようなシステムが実現されていないところがあるなど、定着には時間がかかるように感じました。
- ・ 学校の担当者が退職していたり、交代していたりしている場合があり、前回の実施の際の問題点などが引き継がれていない場合もあった。今回の認証評価結果を、今後の教育に継続して生かしていく仕組みが各学校で必要ではないかと感じた。

② 対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった点について

- ・ 前回の認証評価の結果を踏まえて、それぞれの高専が改善努力をしていることが感じられました。

平成 2 5 年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

貴校名 _____

今回、当機構の評価を受けられて、どのように感じられたか、1～11の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものと記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に○を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。なお、質問事項に該当する事例がなかった場合等、回答できない場合については、回答欄に「－」とご記入ください（下記参照）。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままで結構です。

いただいた回答は、選択式のもののについては、原則として統計的に処理した上で、また、記述式のもののについては、学校名を伏せた上で、公表することといたします。

【回答例】

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)	
回答例① は、適切であった -----	5	4	3	2 1 3
回答例② は、適切であった -----	5	4	③	2 1

(回答できない場合)

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)	
. は、適切であった -----	5	4	3	2 1 -

1. 評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった -----	5	4	3	2	1	
	ある		ない			
⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった -----	2		1			

→※⑤について、2 とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が自己評価しにくかったかをご記入ください。

--

	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった -----	2	1	

→※⑥について、2 とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

--

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。

2. 評価の方法及び内容について

評価の方法及び内容について、(1) 自己評価、(2) 訪問調査等、(3) 意見の申立ての3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

(1) 自己評価について

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた -----	5	4	3	2	1	
② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた -----	5	4	3	2	1	
	迷った		迷っていない			
③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った -----	2		1			

→※③について、2 とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

--

④ 貴校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた -----	5	4	3	2	1	
⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった -----	5	4	3	2	1	
⑥ 自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった -----	5	4	3	2	1	

→※⑥について、2 又は 1 とご回答いただいた場合、どのくらいの文字数であればよいと思うかをご記入ください。

--

	参考にした	参考にしなかった	
⑦ 自己評価書の作成に当たって、既に機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考にした -----	2	1	

・ 自己評価についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(2) 訪問調査等について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

- ② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

- ③ 訪問調査時に機構の評価担当者（事務担当者を除く。以下同様。）が質問した内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ④ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容を設けたことがどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

・訪問調査等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3) 意見の申立てについて

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

- ② 「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載することとしたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

以下は、意見の申立てを行った対象校のみお答えください。

- ③ 貴校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

3. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、(1) 評価に費やした作業量、(2) 機構が設定した作業期間、(3) 評価作業に費やした労力、(4) 評価のスケジュールの4項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

(1) 評価に費やした作業量について

		＜作業量＞				
		とても 大きい (5)	← 適当 (3)	→ 小さい (1)		
①	自己評価書の作成 -----	5	4	3	2	1
②	訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応 -----	5	4	3	2	1
③	訪問調査のための事前準備 -----	5	4	3	2	1
④	訪問調査当日の対応 -----	5	4	3	2	1
⑤	意見の申立て -----	5	4	3	2	1

・評価に費やした作業量についてご意見、ご感想等をご記入ください。

①～⑤について、5とご回答いただいた場合、具体的にどのような作業において作業量が大きかったかをご記入ください。

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

	＜作業期間＞					
	とても 長い (5)	← 適当 (3)	→ 短い (1)			
① 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応 -----	5	4	3	2	1	
② 訪問調査のための事前準備 -----	5	4	3	2	1	
③ 訪問調査当日の対応 -----	5	4	3	2	1	
④ 意見の申立て -----	5	4	3	2	1	

・ 機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	
② 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(4) 評価のスケジュールについて

- ① 自己評価書の提出時期（6月末）は適当であった
（適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。） ----
- ② 訪問調査の実施時期（10月上旬～12月中旬）は適当であった
（適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。） ----

適当	適当でない	
2	1	
2	1	

・評価のスケジュールについてご意見、ご感想等をご記入ください。

4. 説明会・研修会等について

認証評価に関する説明会、自己評価担当者等に対する研修会、その他機構が実施する各種説明等について以下の質問にお答えください。(⑧について、訪問説明を受けなかった対象校は回答欄に「－」をご記入ください。)

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)	
① 説明会の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1
② 説明会の内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1
③ 説明会の内容は役立った -----	5	4	3	2 1
④ 自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1
⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1
⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った -----	5	4	3	2 1
⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った -----	5	4	3	2 1
⑧ 機構が行った訪問説明は役立った -----	5	4	3	2 1
⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応） は適切であった -----	5	4	3	2 1

・説明会・研修会等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

5. 評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）について、（１）評価報告書の内容等、（２）自己評価書及び評価報告書の公表、（３）評価結果に関するマスメディア等の報道の３項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（１）評価報告書の内容等について

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)	
① 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった -----	5	4	3	2 1
② 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	5	4	3	2 1
③ 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった -----	5	4	3	2 1
④ 評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった -----	5	4	3	2 1
⑤ 評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった -----	5	4	3	2 1
⑥ 評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度等）を考慮したものであった -----	5	4	3	2 1
⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた ---	5	4	3	2 1
⑧ 評価報告書の構成及び内容はわかりやすいものであった -----	5	4	3	2 1

→※⑧について、２又は１とご回答いただいた場合、どのような点がわかりにくかったかをご記入ください。

⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった -----	5	4	3	2	1	
----------------------------------	---	---	---	---	---	--

(2) 自己評価書及び評価報告書の公表について

① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイト等で公表している--

している	していない	
2	1	

② 評価報告書をウェブサイト等で公表している -----

2	1	
---	---	--

(3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・評価結果（評価報告書）についてご意見、ご感想等をご記入ください。

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と機構の評価結果を受けての効果・影響とに分けて質問しますので、それぞれお答えください。(具体の活用例、改善例については、別途「7. 評価結果の活用について」で質問します。)

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)			
① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができた -----	5	4	3	2	1	
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた -----	5	4	3	2	1	
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した -----	5	4	3	2	1	
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した -----	5	4	3	2	1	
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進した -----	5	4	3	2	1	
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立った -----	5	4	3	2	1	
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進した -----	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校の個性的な取組を促進した -----	5	4	3	2	1	
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した -----	5	4	3	2	1	
⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した -----	5	4	3	2	1	

・自己評価を行ったことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想等がありましたらご記入ください。

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)	
① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができる -----	5	4	3	2 1
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる -----	5	4	3	2 1
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する -----	5	4	3	2 1
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する -----	5	4	3	2 1
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進する -----	5	4	3	2 1
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立つ -----	5	4	3	2 1
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進する -----	5	4	3	2 1
⑧ 貴校の個性的な取組を促進する -----	5	4	3	2 1
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する -----	5	4	3	2 1
⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する -----	5	4	3	2 1
⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する -----	5	4	3	2 1
⑫ 貴校の教育研究活動等の質が保証される -----	5	4	3	2 1
⑬ 学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる -----	5	4	3	2 1
⑭ 広く社会の理解と支持が得られる -----	5	4	3	2 1
⑮ 他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にする -----	5	4	3	2 1

・機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想等がありましたらご記入ください。

7. 評価結果の活用について

- ① 今回の評価（機構の評価結果だけでなく、貴校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）がありましたら、その主要な事項について、簡潔にご記述ください。

また、その変更・改善の際に、今回の評価はどの程度参考になったかを5段階でお答えください。

特に、評価結果において「改善を要する点」として指摘を受けた事項について、変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）がありましたら、必ずご記述ください。

注：本質問は、機構の評価がどの程度対象校の改善に活用されているかを把握することにより、評価方法の改善を図ろうとするものです。貴校の変更・改善の取組状況自体を評価することを目的とするものではありません。

非常に
参考になった
(5) 参考に
←なった→ (3) あまり参考に
ならなかった
(1)

課題	(記入例) 【基準6】卒業生のアンケート結果からみて、「外国語の能力」の達成度が十分ではない。	5	4	3	2	1	3
変更・改善	「外国語の能力」の達成度を向上させるため、来年度から、カリキュラムの充実、学習環境の整備を行うこととしている。						
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							

※必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしてください。

- ② 貴校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。以下の該当する番号に○を付けるか、下の回答欄に番号を記入してください。（複数回答可）

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 1 貴校の広報誌に評価結果を掲載する。 | 2 貴校のウェブサイトで評価結果を公表する。 |
| 3 資金獲得のための申請書に記載する。 | 4 学生募集の際に用いる。 |
| 5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。 | |
| 6 その他（具体的に） | |

(

)

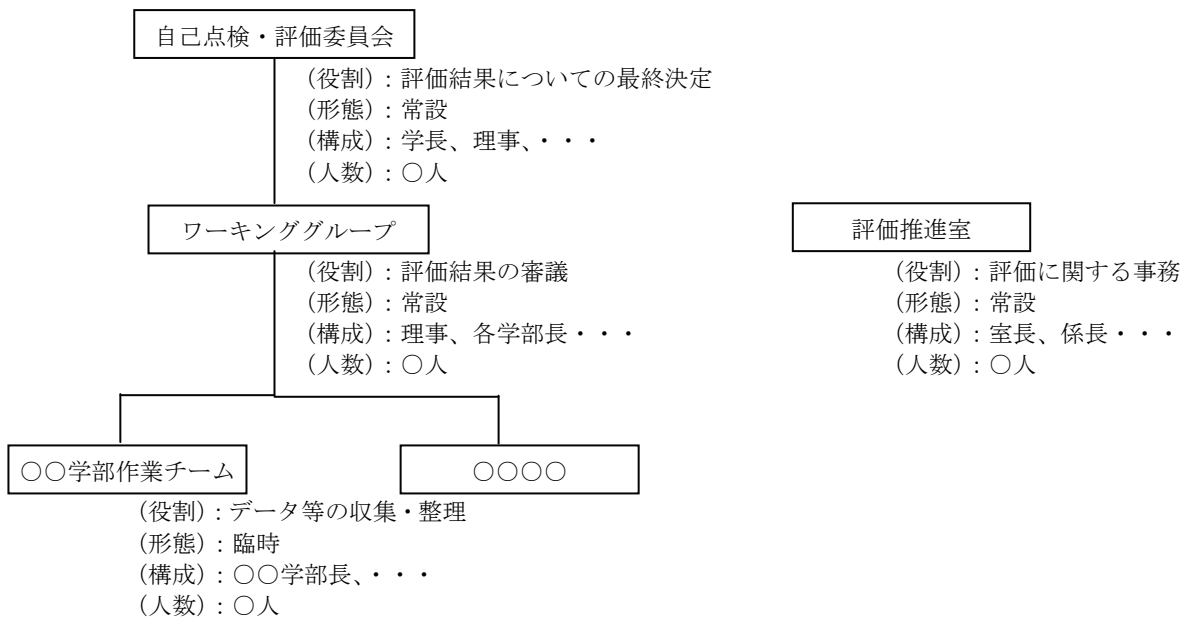
回答欄

8. 評価の実施体制について

貴校の評価の実施体制について教えてください。今後の当機構の評価を、より効果的なものとするために参考とさせていただきます。

・評価（自己点検・評価、認証評価等）を行うための実施体制について、その組織名称、役割、設置形態（常設・臨時）、人数構成等をお教えてください。「例」を適宜参考にし、わかりやすくご記入ください。（以下の「例」は削除して結構です。）既存の資料がありましたら、それを添付していただいて結構です。

（記入例）



他に具体的な説明等がありましたら以下にご記入ください。

・評価の実施体制について、貴校が行っている方策・工夫等がありましたらお教えてください。また、その方策・工夫等について良かった点、悪かった点等、その他ご感想についても併せてお教えてください。

9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について、評価の目的である、教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、5又は4とご回答いただいた場合、質の保証にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

--

- ② 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、改善の促進にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

--

- ③ 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、5又は4とご回答いただいた場合、社会からの理解と支持にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

--

10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

前回の認証評価を受けた時と比較して、当機構の認証評価プロセスが改善されたかどうかについて、以下の質問に可能な範囲でお答えください。

	非常に良く なっている (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	非常に悪く なっている (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するためにより適切なものとなった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった -----	5	4	3	2	1	
③ 訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑤ 評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった ----	5	4	3	2	1	
⑥ 説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑦ 評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった -----	5	4	3	2	1	
⑨ 評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑩ 自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑪ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった	5	4	3	2	1	

・ 前頁の項目以外で良くなっていると思う事項がありましたら、ご記入ください。

・ 前頁の項目以外で悪くなっていると思う事項がありましたら、ご記入ください。

1 1. その他

- ・実際に評価を受けて期待どおりであったかについてご記入ください。

- ・その他、当機構の行う評価についてご意見等がありましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

平成25年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

ご氏名

今回、当機構の評価に携わっていただき、どのように感じられたか、以下の1～7の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものと記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に○を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。なお、質問事項に該当する事例がなかった場合等、回答できない場合については、回答欄に「－」とご記入ください（下記参照）。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままで結構です。

いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また記述式のものについては、ご氏名を伏せた上で、公表することといたします。

【回答例】

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)	
回答例① は、適切であった	5	4	3	2
回答例② は、適切であった	5	4	③	2

(回答できない場合)

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)	
. は、適切であった	5	4	3	2

1. 評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった -----	5	4	3	2	1	
	ある		ない			
⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった -----	2		1			

→※⑤について、2 とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が評価しにくかったかをご記入ください。

--

	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった -----	2	1	

→※⑥について、2 とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

--

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。

2. 評価の方法及び内容・結果について

評価の方法及び内容・結果について（１）自己評価書、（２）書面調査、（３）訪問調査、（４）評価結果の４項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

(1) 自己評価書について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

--

- ② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

・自己評価書の様式についてご意見、ご感想等をご記入ください（特に対象校に事前に伝えたい点、様式上の事項として不足のあった点等があればお聞かせください）。

(2) 書面調査について

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

- ① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

--

- ② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

--

・書面調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

(3) 訪問調査について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ② 訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が確認できなかったかをご記入ください。

--

- ③ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容を設けたことがどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

- ④ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の方法がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

- ⑤ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の時間配分がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

- ⑥ 訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ⑦ 訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であるかをご記入ください。

--

- ⑧ 訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・訪問調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

(4) 評価結果について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された -	5	4	3	2	1	
② 基準1から基準11の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価結果全体としての分量は適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった -----	5	4	3	2	1	

・評価結果についてご意見、ご感想等をご記入ください。

3. 研修について

機構が実施する研修について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)			
① 研修の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2	1	
② 研修の説明内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2	1	
③ 研修の内容は役立った -----	5	4	3	2	1	
④ 自己評価書のサンプルの提示は役立った -----	5	4	3	2	1	
⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった -----	5	4	3	2	1	

・研修についてご意見、ご感想等をご記入ください。



4. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、(1) 評価に費やした作業量、(2) 機構が設定した作業期間、(3) 評価作業に費やした労力、(4) 評価作業にかかった時間数の4項目に分けて質問しますのでそれぞれお答えください。

(1) 評価に費やした作業量について

		＜作業量＞				
		とても 大きい (5)	← 適当 (3)	→ 小さい (1)		
①	自己評価書の書面調査	5	4	3	2	1
②	訪問調査への参加	5	4	3	2	1
③	評価結果（原案）の作成	5	4	3	2	1

・評価に費やした作業量についてご意見、ご感想等をご記入ください。

①～③について、5とご回答いただいた場合、具体的にどのような作業において作業量が大きかったかをご記入ください。

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

＜作業期間＞					
とても 長い ←		適当		→ とても 短い	
(5)		(3)		(1)	
① 自己評価書の書面調査 -----	5	4	3	2	1
② 訪問調査への参加 -----	5	4	3	2	1
③ 評価結果（原案）の作成 -----	5	4	3	2	1

・ 機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

(4) 評価作業にかかった時間数について

評価作業にかかったのべ時間数（部会、訪問調査への出席を除く）について、以下の項目ごとに概数でお答えください。

※1校あたりではなく、全体でかかった時間をご回答ください。

① 自己評価書の書面調査	およそ		時間
② 訪問調査の準備	およそ		時間
③ 評価結果（原案）の作成	およそ		時間

・評価作業にかかった時間数についてご意見、ご感想等をご記入ください。

5. 評価部会等の運営について

評価部会、専門部会の人数や構成、運営について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)	
① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった -----	5	4	3	2 1
② 部会運営は円滑であった -----	5	4	3	2 1

・評価部会等の運営についてご意見、ご感想等をご記入ください。

6. 評価全般について

評価を行ったことによる効果・影響等、評価全般について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも ←言えない (3)	全くそう →思わない (1)		
① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う -----	5	4	3	2 1	
② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う ----	5	4	3	2 1	
③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う -----	5	4	3	2 1	
④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた -----	5	4	3	2 1	
⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	5	4	3	2 1	
⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった -----	5	4	3	2 1	

・評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についてご意見、ご感想等をご記入ください。

7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について、評価の目的である、教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、以下の質問に可能な範囲でお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、5又は4とご回答いただいた場合、質の保証にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

--

- ② 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、改善の促進にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

--

- ③ 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった --

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、5又は4とご回答いただいた場合、社会からの理解と支持にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

--

ご協力ありがとうございました。

